

はじめに



今日、観光志向は、観光客の価値観や旅行の目的、ニーズの変化などにより多様化し、観光地は、新鮮で魅力的な“地域”であることが求められています。また、観光振興は、“まちづくり”に果たす役割が大きく、市民の期待が高まってきています。

平成18年3月に甘木市、朝倉町、杷木町の合併により誕生した朝倉市には、城下町・秋月、三連水車、原鶴温泉をはじめとして、豊かな自然や歴史・文化に彩られた魅力的な観光資源が随所に点在しています。また、本市が誇る水と澄んだ空気、肥沃な土地による農産物は、重要な観光資源です。

これらの資源にさらに磨きをかけ活かしていくことは、本市を訪れる多くの方々に多様な魅力を提供し、交流人口の増加につながるだけではありません。市民が魅力を再発見することにより地域への愛着や誇りにつながり、合併後の市の一体感の醸成にも大きく寄与すると同時に、経済波及効果も期待されます。

この度、朝倉市では「第1次朝倉市総合計画」の観光振興分野における個別計画として、観光行政の指針となる「朝倉市観光基本計画」を策定しました。

本計画においては、将来像を「“だんだん”あさくら物語」としました。“だんだん”は、朝倉地方の方言で“どうもありがとう”を意味します。人や地域資源に感謝しながら、温かいおもてなし・ふれあいで、だんだんと着実に前進していくことを表しています。計画の実現に向け、市民と行政が一体となって取り組むことで、相互の信頼や理解がより深まり、本市に“だんだん”の心が満ち溢れることを念願しております。

計画の策定にあたり、熱心にご協議、ご議論をいただきました朝倉市観光基本計画策定委員会の皆様をはじめ、関係団体等ヒアリング、ワークショップ、アンケートなどにご協力いただいた多くの市民の方々に厚くお礼を申し上げます。

今後、本計画に基づき、まずは、市民、事業者、関連団体との協働の体制づくりに取り組み、多くの方々の知恵を結集しながら本市の観光施策を積極的に推進して参りますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

平成20年3月

朝倉市長 塚本勝人

だんだん

あさくら物語

平成20年3月 朝倉市



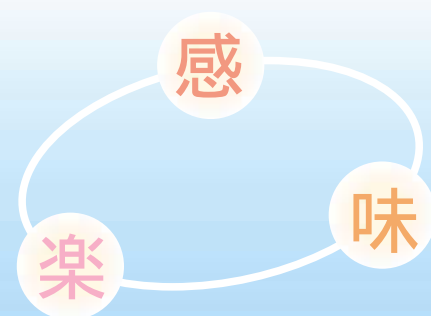
朝倉市観光基本計画

朝倉市観光基本計画 “だんだん” あさくら物語

平成20年3月 朝倉市



朝倉市観光基本計画
“だんだん” あさくら物語



“だんだん”とは、朝倉地方の方言で「ありがとう」の意味。「どうもありがとう」の「どうも」に近く、古くに使われていた「段々有難う」という会話表現に由来する。

朝倉市の主な観光資源





第1部 序論（計画の策定にあたって）	1
第1章 計画策定の趣旨	2
第2章 計画の位置づけ・性格	4
第3章 計画の期間	6
第4章 計画策定の体制	7
第5章 朝倉市の観光を取り巻く概況	8
第6章 計画の構成イメージ	31
第2部 総論（計画の基本的な考え方）	33
第1章 朝倉市観光の将来像	34
第2章 基本的な方向性	35
第3章 計画の目標の考え方	36
第3部 各論（分野別の取り組み）	37
第1章 観光資源の活用	39
第2章 おもてなしの仕組みづくり	50
第3章 情報発信の充実	57
第4章 観光客に配慮した環境づくり	60
第5章 観光振興の推進体制づくり	65
第4部 重点プロジェクト	69
第1章 重点プロジェクトの位置づけ	70
第2章 重点プロジェクトの内容	70
第5部 計画の推進に向けて	73
第1章 各主体の役割	74
第2章 計画の推進体制	75
資料編	77

第 1 部 序論（計画の策定にあたって）

- 第1章 計画策定の趣旨
- 第2章 計画の位置づけ・性格
- 第3章 計画の期間
- 第4章 計画策定の体制
- 第5章 朝倉市の観光を取り巻く概況
- 第6章 計画の構成イメージ

第1章 計画策定の趣旨

1 観光振興の意義

地方分権の進展、少子高齢化、人口減少など、地方を取り巻く状況は大きく変化し、厳しさを増しています。このような状況の中、観光振興は、これからの地域活性化における大変重要な手段として注目されています。そこには、どのような効果が考えられるのでしょうか。

順を追ってとらえれば、

- ① 観光振興の重要性をしっかりと認識し、その姿勢や方向性を明確に打ち出すことで、市民・事業者・行政といったそれぞれの枠組みや分野を越えた観光振興を促進する。
- ② そのことで、従来からの目標である「訪れたいと思われるまちの実現」に加え、「住みたいと思えるまちの実現」が可能となる。
- ③ ひいては、まちづくりそのものの根幹である「市民の誇りと愛着」「活力と賑わい」が実現され、相乗効果によって地域活力が増大される。
- ④ 増大した地域活力は、さらなる観光振興の取り組みへと底上げされる。

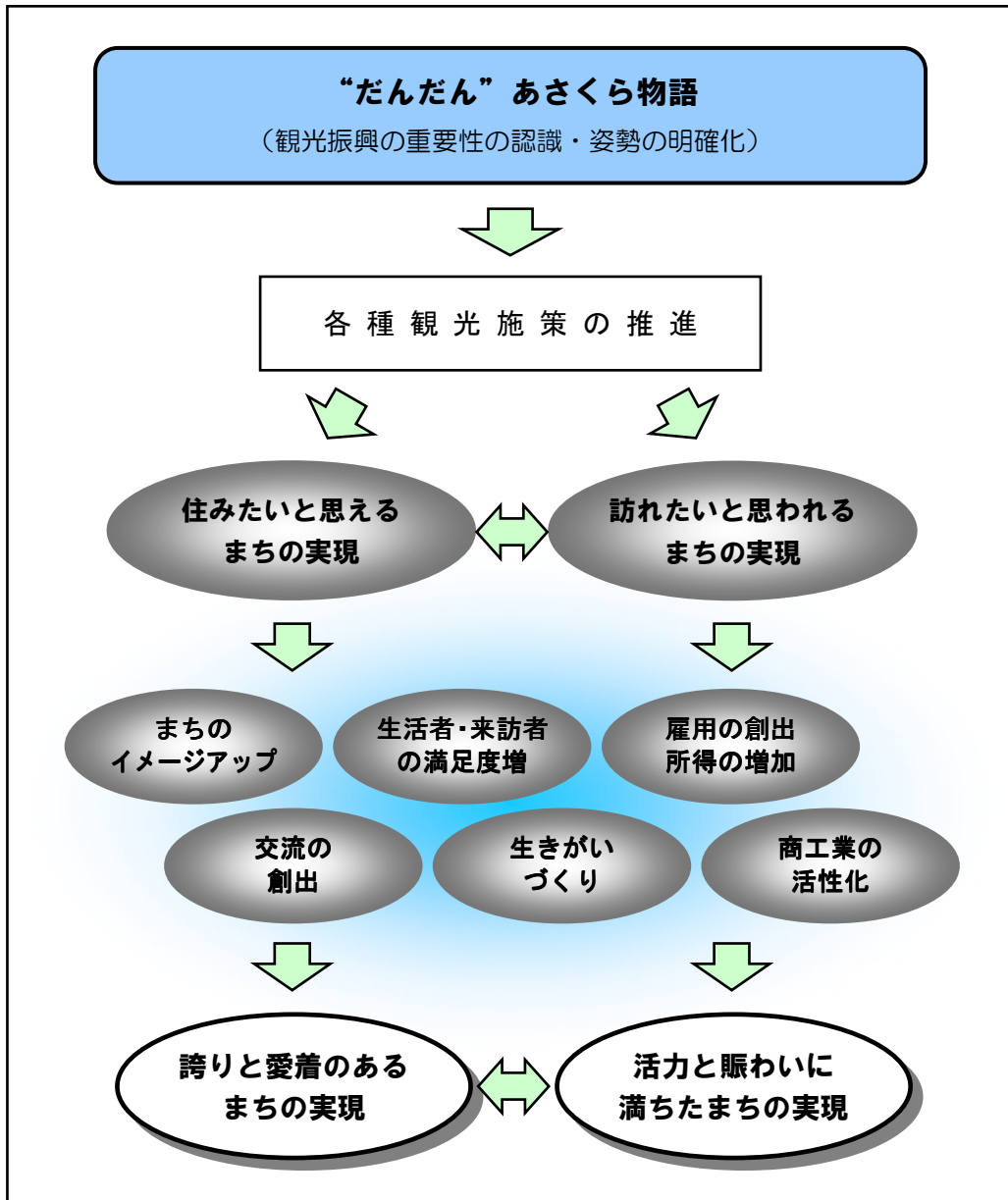
…というように、広範な効果が期待されます。

このような好循環を地域に根付かせていくことができれば、観光振興は単に産業の一分野としてではなく、まちづくりの生命線として大変意義のある取り組みと位置づけられます（次ページ図を参照）。



筑後川

<観光振興のイメージ>



2 計画策定の背景

前述のとおり、地方を取り巻く状況は厳しさを増しています。朝倉市においても、少子高齢化・人口減少は例外でなく、これまで地域の活力の指標として特に重視されてきた「定住人口」とともに、「交流人口※」の拡大による地域振興といった発想がより一層重要になっています。

近年、観光におけるニーズは、「団体志向から個人・家族志向」、「訪問型から滞在型」、「受け身型から参加・体験型」などに変化してきており、観光地の多様性や個性が求められています。こうした背景をもとに、リゾート開発から、地域づくり、伝統・文化の見直し、自然環境保護など、持続可能な観光開発へと転換が図られ、地域の資源を活かした観光が各地で展開されつつあります。

そのことを踏まえて朝倉市の状況を振り返ると、自然、歴史・文化、食、温泉など、多様な特性を備える朝倉市の環境と豊かな市民力をもって観光振興に取り組むことは、この厳しい時代を乗り越えていく上で、自然かつ有効な方策であり、最重要課題の一つとして認識しなければなりません。

朝倉市は、平成 18 年 3 月の 1 市 2 町合併によって誕生し、各地域の既存の豊富な観光資源に恵まれたまちであるとともに、新市としてまだまだたくさんの魅力を秘めた地域でもあります。

観光振興を通じて、現在あるものを最大限に活用しつつ、埋もれた魅力を引き出し、つなげ、さらなる地域活性化を実現する。そのための共通の指針として、「朝倉市観光基本計画」（以下、本計画）を策定しました。

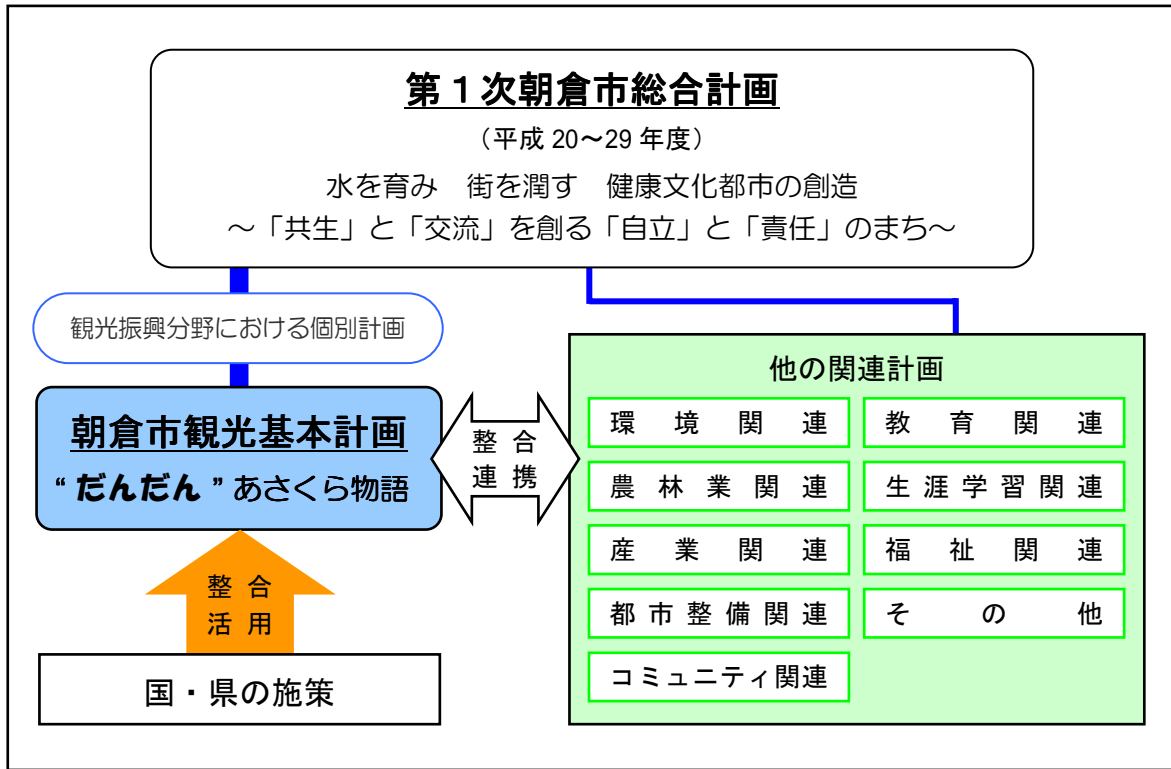
※交流人口：観光客のように、他地域から訪れて地域の活性化に結びつく人口のこと。

第 2 章 計画の位置づけ・性格

本計画は、「第 1 次朝倉市総合計画」の観光振興分野における、個別計画として位置づけられるものです。

また、朝倉市の観光振興についての理念や方向性とともに、観光振興を進めていく上での、各主体の役割、地域・市民・諸団体等との連携のあり方を明らかにし、関係する主体の協働による観光都市づくりの指針となるものです。

<本計画の位置づけ>



<第1次朝倉市総合計画（平成20～29年度）の概要>

朝倉市の位置づけ

朝倉市は、福岡都市圏から福岡県外に至る観光・交流の流れ（観光・交流軸）の中間に位置し、拠点的な位置づけを持つ潜在力を有している一方、久留米市・鳥栖市などから筑豊地域、北九州市に至る産業立地（産業連携軸）の中でも中間的な位置づけを有している。

河川流域や水源地としての位置づけを基本としながら、さらに「観光・交流軸」と「産業連携軸」の中間に位置し、両者の交わる交差点（クロスロード）となっている位置づけを最大限活用し、市内外の交流をますます盛んにするとともに、産業立地の展開によって、定住人口の確保と地域の振興を図る。

将来像

水を育み 街を潤す 健康文化都市の創造
 ～「共生」と「交流」を創る「自立」と「責任」のまち～

10年後の姿・シンボル事業

- 1 **共生**：人・自然が共生する健やかなまち
- 2 **交流**：交流による地域産業が盛んなまち
 - (1) 食のブランド展開
 - (2) 地域・観光・交流産業の創出
 - (3) 定住と産業立地をうながす条件整備
- 3 **自立**：元気なコミュニティにより自立するまち
- 4 **責任**：行政の透明性・公平性と財政の健全性・持続性の確立

施策の大綱

- 1 心豊かに、人が輝くまちづくり
- 2 人と人が助け合い、安心をもたらすまちづくり
- 3 **豊かな地域資源を活かした産業活動を展開するまちづくり**
- 4 自然と共生する循環型社会を築くまちづくり
- 5 新しいふるさととして定住をうながすまちづくり
- 6 持続的な行財政運営によるまちづくり

特に本計画と関連の強い分野

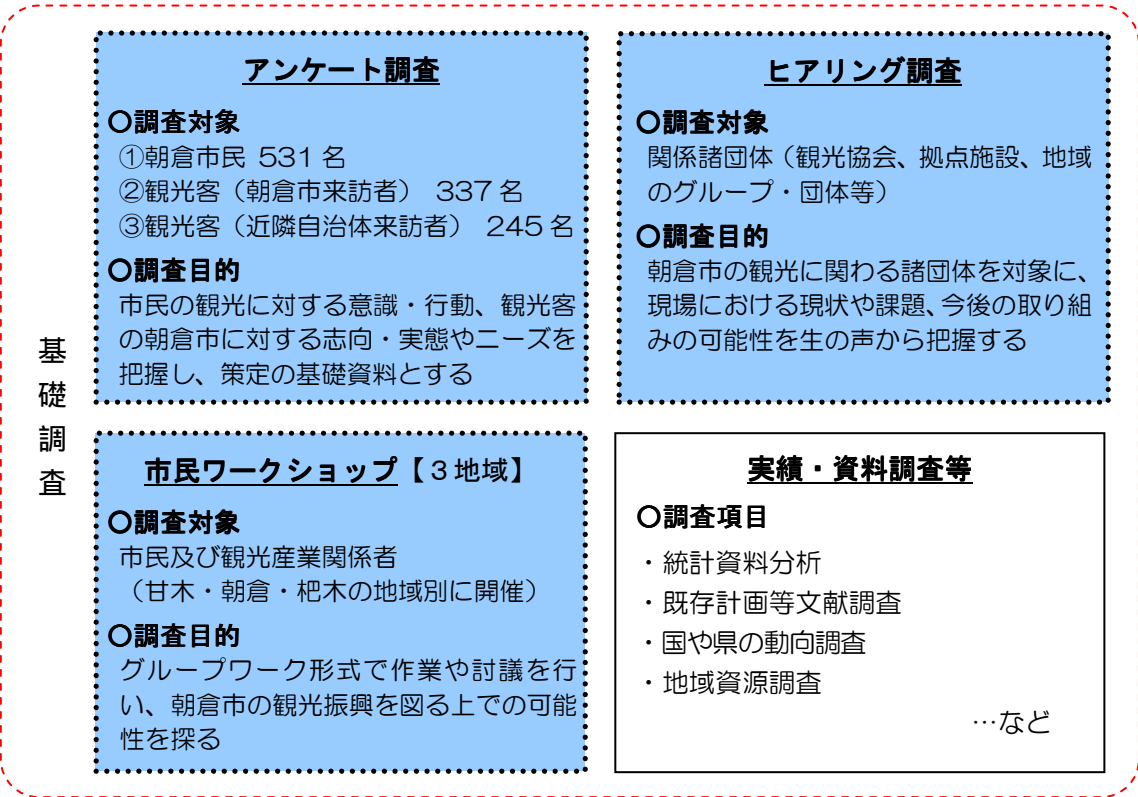
第3章 計画の期間

本計画は、平成20年度を初年度とし、平成29年度を目標年度とする10年間の計画です。なお、この間の市の状況や観光を取り巻く社会情勢の変化によって、必要に応じて適宜見直しを行うものとします。

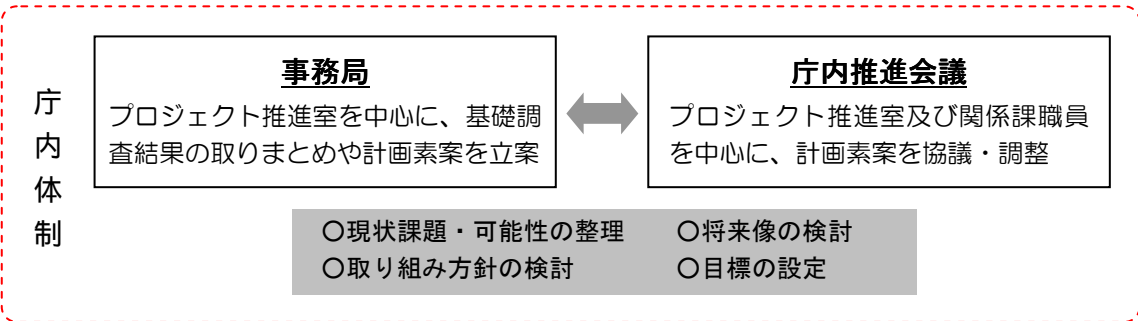


秋月地区・黒門

第4章 計画策定の体制

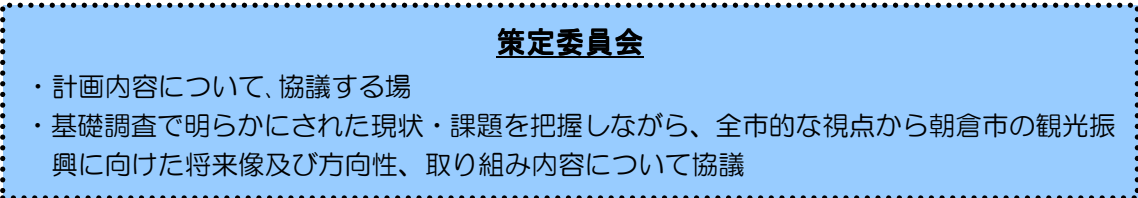


↓ 現状課題・可能性の抽出



↓ 計画素案の提案

↑ 意見具申



「朝倉市観光基本計画」案の策定

●●●●●は、市民参加による策定プロセス

第5章 朝倉市の観光を取り巻く概況

1 朝倉市の概況

(1) 位置・地勢・面積

朝倉市は、福岡県のほぼ中央部、福岡市の南東約 30 km、久留米市の北東約 20 km に位置し、東は大分県日田市に接しています。市内を西から南東へと貫く国道 386 号から南側は平野を形成し、北側は古処山や馬見山をはじめとする 800～1,000m 級の山々が連なります。この山地の中に福岡市など周辺地区への水資源供給の役割を担う江川ダム・寺内ダムがあり、さらに、市内 3 番目のダムとして小石原川ダムの建設が予定されています。

市域西端部は、商工業を中心とした市街地や鉄道駅が立地し、市街地から北へ約 5km の市域北西部には旧城下町の秋月地区があり、同地区は「筑前の小京都」と呼ばれています。

また、市域南部には筑後川が流れ、河川沿いを中心に肥沃かつ平坦な農地を形成しています。

交通は市域の南部を大分自動車道が走り、甘木、朝倉、杷木の 3 つのインターチェンジが整備されているほか、甘木駅を起点とする甘木鉄道と西鉄甘木線の 2 つの鉄道と、国道 386 号や国道 322 号などの幹線道路をはじめとする道路網により周辺都市との連携が図られています。

総面積は 246.73 km² で、東西に 22.9km、南北に 17.4km の広がりを持ち、福岡県の面積の約 5% に相当します。地目別にみると、山林 (54.7%) が最も多く、次に田 (15.4%)、畑 (8.3%) と続き、宅地は 6.6% となっています。山林や農地は経済的な資源であるとともに、水源かん養や温室効果ガスの吸収、水害防止などの多面的機能を持っており、これらの資源は朝倉市を形成する大きな特徴の一つであると言えます。

（2）歴史・沿革

「朝倉」という地名は、この地方一帯を示す古い言葉ですが、その記録をたどると、遠く飛鳥時代までさかのぼります。西暦 661 年、齊明天皇（女帝）は朝鮮半島の百済からの要請に応じて出兵を決意し、現在の朝倉地区に「橘廣庭（たちばなのひろにわ）」と呼ばれる仮宮殿を設けました。この折に齊明天皇が言った「朝（あさ）なお闇（くら）き」が朝倉市の「朝倉」という地名の由来とされています。

中世には秋月氏が古処山に本城を築き、約 400 年にわたって当地を治め、その後、江戸時代には筑前黒田藩の支配下に置かれました。秋月には黒田長政の三男長興を藩主として、黒田藩の支藩である秋月藩（5万石）が置かれ、今も当時をしのばせる目鏡橋、黒門、長屋門などの建造物が残っています。旧城下のほぼ全域が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されているのは、全国でも同地区だけとなっています。

こうした歴史を受け継ぎながら、明治 5 年の廃藩置県や明治 22 年の町村制施行などを経て、昭和 20～30 年代には「昭和の大合併」の中で甘木市、朝倉町、杷木町の 1 市 2 町の行政区域となりました。さらに、平成 18 年 3 月に、いわゆる「平成の大合併」により朝倉市が誕生し、現在に至っています。

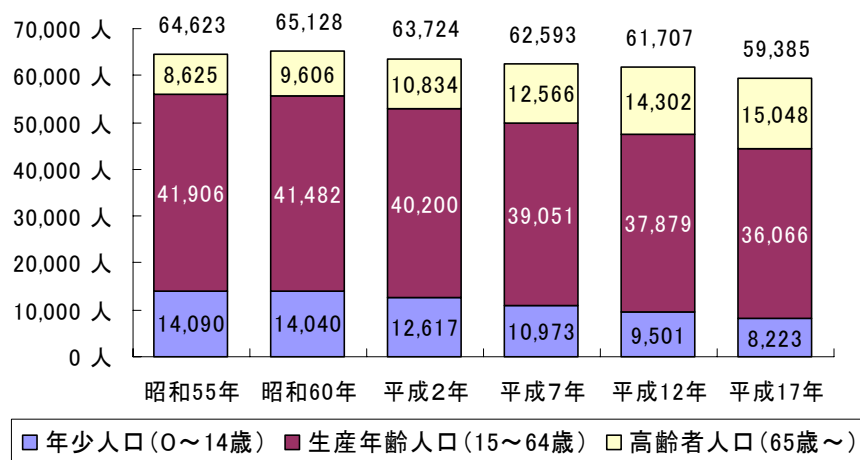
（3）人口・世帯

朝倉市の人口は、昭和 60 年をピークに減少に転じており、昭和 60 年（65,128 人）から平成 17 年（59,385 人）までの 20 年間に約 5,700 人減少しています（8.8%減）。

年齢別 3 階層人口については、平成 17 年時点で高齢者人口（65 歳以上）が 15,048 人、年少人口（15 歳未満）が 8,223 人となっており、少子高齢化が顕著になっています。

また、世帯数については一貫して増加し、平成 17 年時点で 18,737 世帯となっています。

<年齢(3区分)別人口>



※年齢不詳分を含む

<世帯数>



三連水車

2 朝倉市の主な観光資源

朝倉市は、甘木、朝倉、杷木の各エリアにわたって、自然、歴史・文化、食と農、温泉など、多くの観光資源に恵まれています。また、観光プラザほとめく館や多数のまちの駅、道の駅、農産物直売所などといった観光拠点施設も充実しています。

しかしながら、観光資源の実態としては、全国的に認識されるまでは至っていないものがほとんどです。今後は、これらの資源に一層の磨きをかけ、活用を図るとともに、各資源間の連携が求められることとなります。

（1）自然

朝倉市は、水や緑、空気といった豊かな自然環境に恵まれています。

市南部には、境界にほぼ沿う形で、九州一の大川である筑後川が流れています。ここから派生する形で、筑後川の洪水を治め、安定的に高田へ農業用水を供給するために築かれた堀川の三連水車群があります。この三連水車は、現在も毎年6月中旬から10月中旬まで稼働しており、その灌がい面積は合計35haにも及びます。こうした貴重な水資源の恩恵を受けた田園風景は、涼感と豊かな情緒のある、昔ながらの風情を醸し出しています。

また、秋月地区の紅葉と桜、甘木公園の桜、原鶴のひまわり園、ビール工場のコスモス・ポピー園など、市内各地で季節の花々が彩りを添え、訪れる人を魅了しています。

さらに、公園、ゴルフ場など、自然を活用したレクリエーション施設も多数整備されているなど、これらの自然資源は朝倉市の宝として、市民や来訪者に親しまれています。

（2）歴史・文化

朝倉市は、名所旧跡などの多彩な歴史・文化資源に恵まれています。

特に秋月地区は、旧城下町全体が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、史跡・天然記念物などの文化財の宝庫として知られているだけでなく、現在も残る城跡や当時の町並みなど、「筑前の小京都」として観光客に親しまれています。

また、三連水車は、200年以上の歴史を誇る国指定の史跡で、日本最古にして最大の自動回転式重連揚水水車です。

一方、自然の中にある身近な草花を用いて染め上げる草木染め、秋月黒田藩の奨励産業として発展した秋月和紙、熟練の職人による竹工芸などの伝統工芸も今に伝えられています。さらには、安長寺バタバタ市や、全国でも例をみない奇祭である阿蘇神社の「泥打ち祭り」、大山祇神社の「おしろい祭り」など、多くの行事・祭事が継承されています。

(3) 食と農

朝倉市は、旬の食材の宝庫です。

筑後川沿いを中心に、肥沃で平坦な農地が形成されており、米麦や万能ねぎをはじめとする農産物の生産が行われています。さらに、その東には山間丘陵地が広がり、柿、梨、ブドウ、りんごなどの果樹の生産が盛んに行われています。

また、フルーツ狩りなどの体験型観光や、地元で採れる新鮮な食材を使った料理・お菓子・特産品、ビール工場など、食と農が楽しめる資源を数多く有しています。

(4) 温泉

朝倉市には、旅の大きな魅力の一つである温泉資源が点在しています。

特に、原鶴温泉は、筑後川の河畔にたえずむ名湯として、福岡県随一の湧出量を誇っています。また、ハーブ公園やパークゴルフ場、川の駅等も備えており、中でも夏の風物詩であり、太古から行われていたとされる「鵜飼い」は有名です。



鵜飼い



おしろい祭り (大山祇神社)

3 統計からみる朝倉市の観光の状況

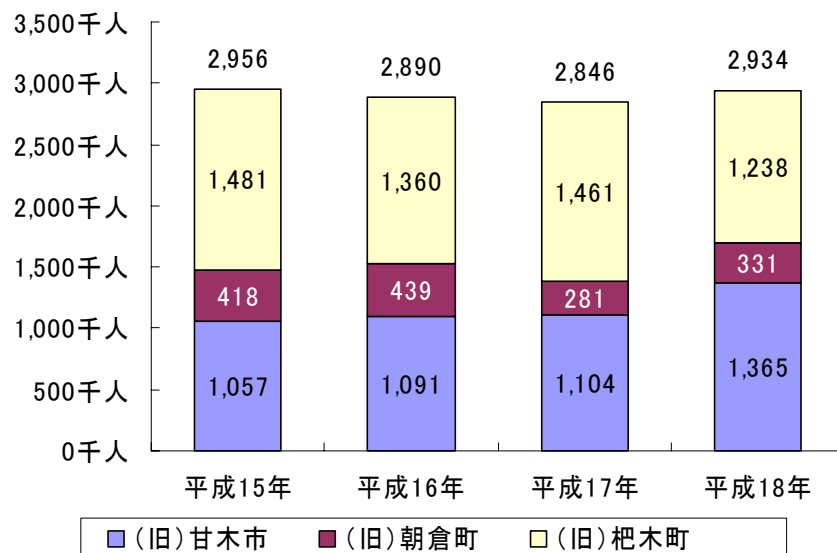
（1）観光入込客総数

朝倉市の観光入込客総数（平成18年2月末までは旧1市2町の計）をみると、平成18年には約293万人となっており、平成17年まではわずかに減少傾向にあったものが、やや持ち直した状況にあります。

旧市町単位の地域別にみると、平成18年では（旧）甘木市が約136万人（46.5%）、（旧）朝倉町が約33万人（11.3%）、（旧）杷木町が約124万人（42.2%）となっており、甘木地域と杷木地域で全体の観光入込客の約9割を占めています。

各地域の推移は、年によって増減のばらつきがみられますが、甘木地域はここ数年増加傾向にあると言えます。また、朝倉地域は平成19年に「三連水車の里あさくら」がオープンしており、今後の伸びが予測されます。

＜観光入込客総数の推移＞



資料：福岡県観光入込客推計調査

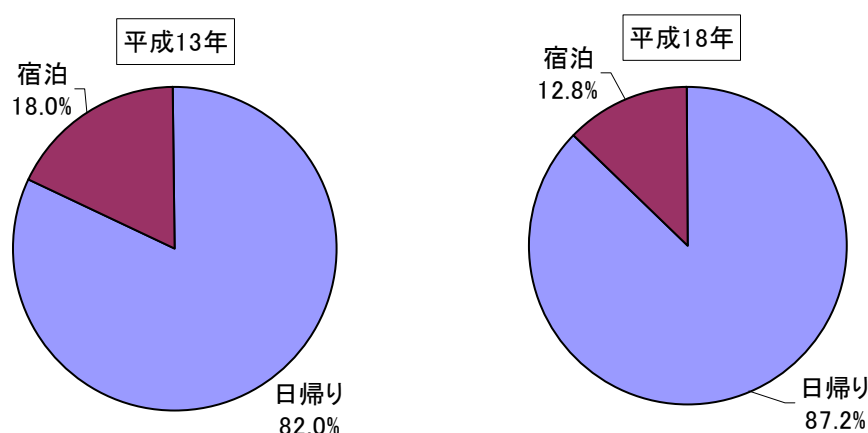
(2) 日帰り・宿泊客の割合

朝倉市の日帰り・宿泊客の割合（平成13年は旧1市2町の計）をみると、平成18年には日帰り客が87.2%、宿泊客が12.8%と日帰り客が多くなっています。

その経年変化をみると、平成13年では日帰り客が82.0%、宿泊客が18.0%となっており、日帰り客の割合が大きくなってきている状況にあります。

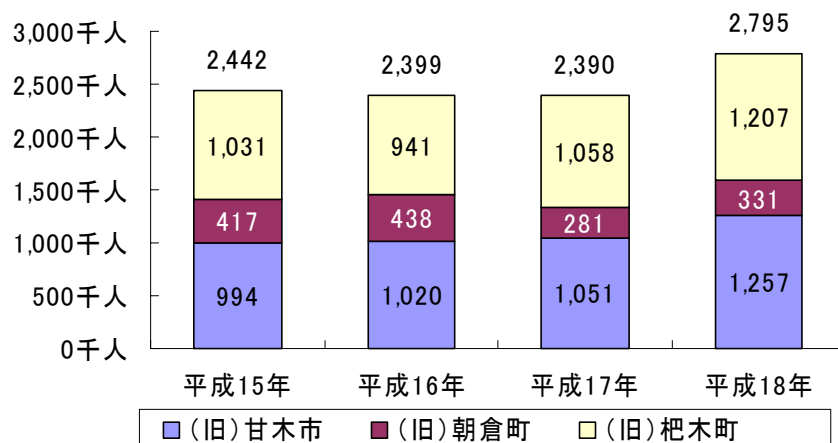
また、宿泊客を地域別にみると、全体の約74%が原鶴温泉を有する杷木地域に宿泊しています。

<日帰り・宿泊客の割合>



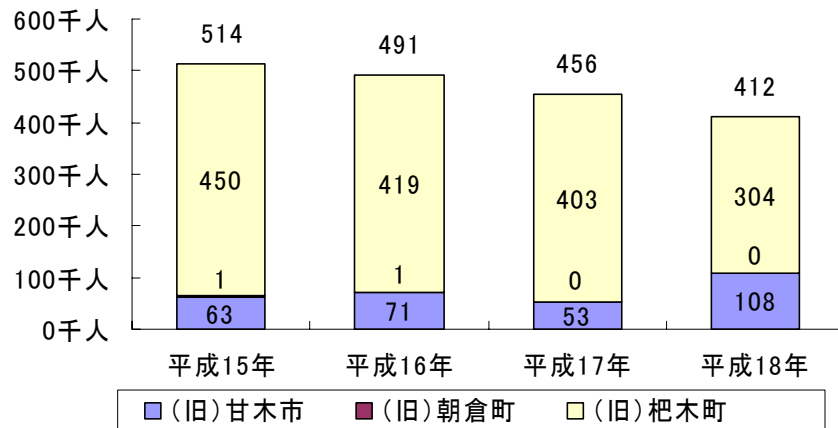
資料：福岡県観光入込客推計調査

<日帰り客数の推移>



資料：福岡県観光入込客推計調査

＜宿泊客数の推移＞



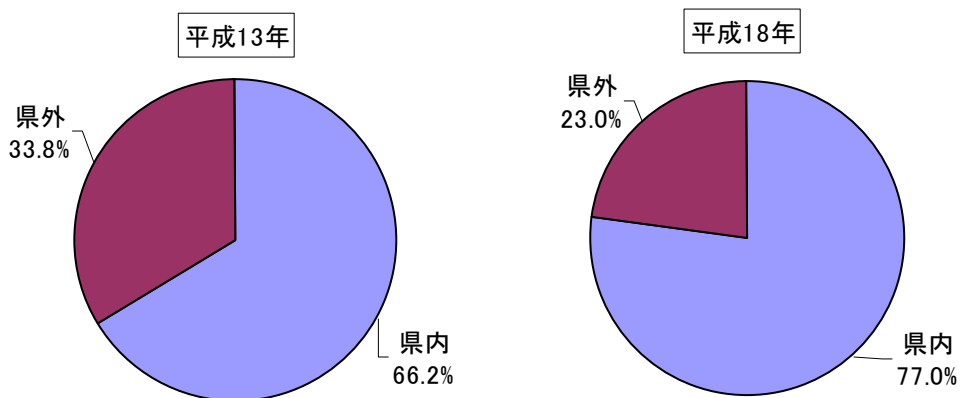
資料：福岡県観光入込客推計調査

（3）県内・県外観光客の割合

朝倉市の県内・県外観光客の割合（平成13年は旧1市2町の計）をみると、平成18年には県内が77.0%（約226万人）、県外が23.0%（約68万人）と県内からの観光客が多くなっています。

その経年変化をみると、平成13年では県内が66.2%（約201万人）、県外が33.8%（約103万人）となっており、県内からの観光客の割合が大きくなってきている状況にあります（平成13年からの5年間で10.8ポイント増）。

＜県内・県外観光客の割合＞



資料：福岡県観光入込客推計調査

(4) 観光消費額の状況

朝倉市（平成 18 年 2 月末までは旧朝倉町・旧杷木町分の計、旧甘木市分は不明）における観光消費額※をみると、平成 18 年には市全体として約 110 億円となっています。

観光消費額：観光客（日帰り、宿泊）が滞在中に行う経済活動（食事、温泉、宿泊、お土産など）を算出した金額。

<観光消費額の推移>

単位：百万円

	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
(旧) 甘木市	-	-	-	10,990
(旧) 朝倉町	718	757	7,909	
(旧) 杷木町	6,761	6,456		

資料：福岡県観光入込客推計調査

(5) 主要観光拠点の利用状況

朝倉市の主要観光拠点の年間利用（来訪）状況をみると、秋月地区の約 37 万人（平成 18 年）、原鶴温泉の約 151 万人（平成 18 年）、道の駅「原鶴」ファームステーションバサロの約 64 万人（平成 18 年）が突出しています。

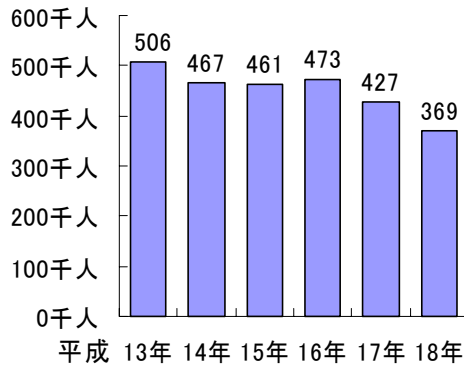
秋月地区は、来訪者数が減少傾向にあり、平成 16 年に一度増加したものの、平成 13 年からの 5 年間で約 13.7 万人少なくなっています（約 27.1%減）。

原鶴温泉は、宿泊者数が減少傾向にあり、平成 13 年からの 5 年間で約 20.3 万人少なくなっています（40.0%減）。

道の駅「原鶴」ファームステーションバサロは、利用者数が大きく増加しており、平成 14 年からの 4 年間で約 13.3 万人増えています（約 26.1%増）。

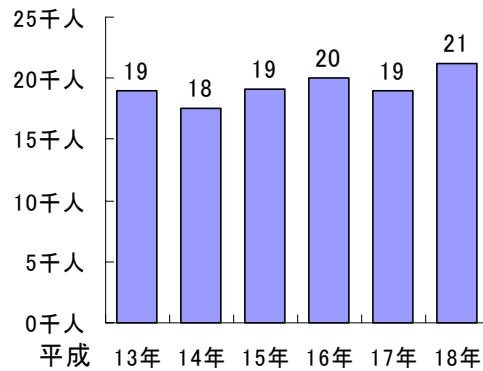
また、その他にも、年間に約 80 万人が訪れるビール工場・キリン花園、堀川の三連水車群及び平成 19 年にオープンした三連水車の里あさくらなど、大きな集客力を持つ観光拠点が市内に位置している状況となっています。

<秋月地区>



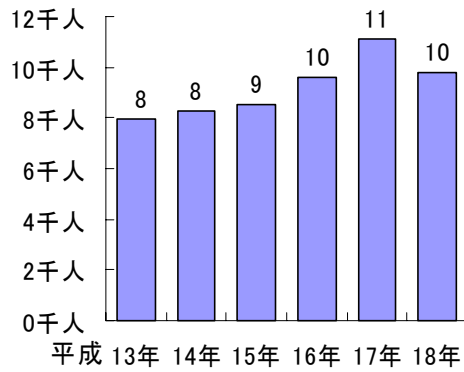
資料：福岡県観光入込客推計調査

<平塚川添遺跡公園>



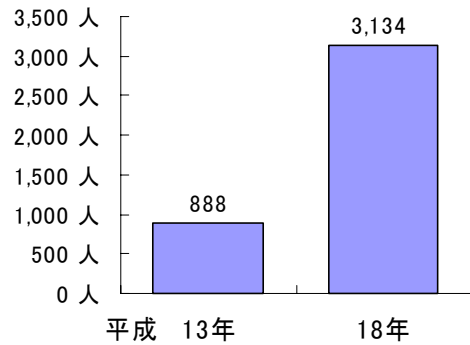
資料：福岡県観光入込客推計調査

<甘木歴史資料館>



資料：福岡県観光入込客推計調査

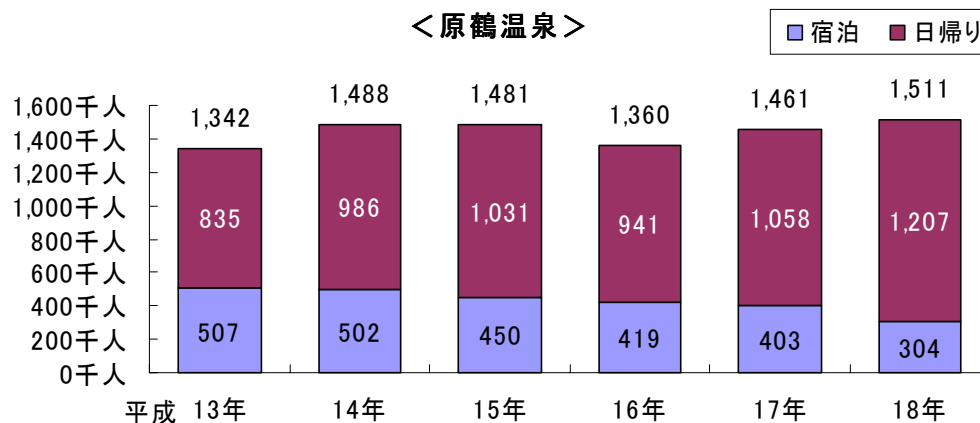
<共星の里>



※平成12年4月オープン

資料：福岡県観光入込客推計調査

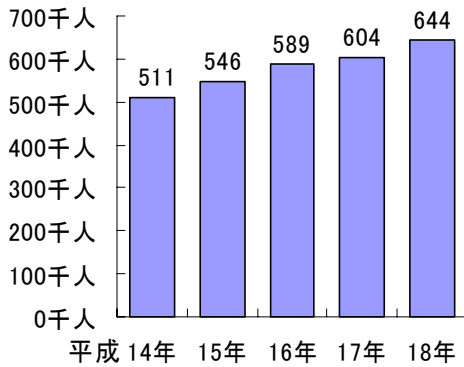
<原鶴温泉>



※日帰り客数はイベント等への参加者数を含む

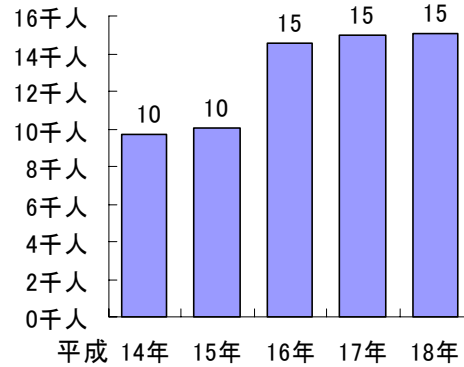
資料：福岡県観光入込客推計調査

＜道の駅「原鶴」
ファームステーションバサロ＞



資料：福岡県観光入込客推計調査

＜川の駅「原鶴」パークゴルフ場＞



資料：福岡県観光入込客推計調査

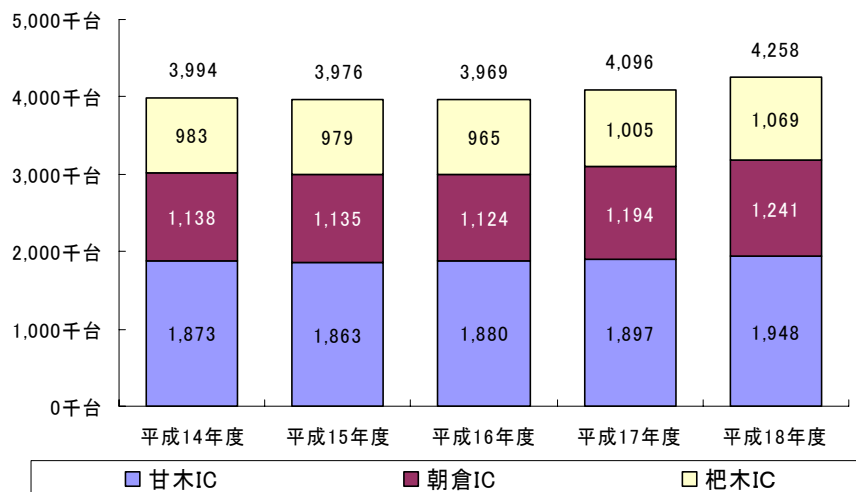
(6) 高速道路の利用状況

朝倉市内には大分自動車道が横断しており、福岡都市圏からのアクセスも1時間前後と移動の利便性が高くなっています。また、長崎自動車道鳥栖ジャンクションへも近く、旧市町のエリアごとにインターチェンジが設置されているのも特徴的です。

市内インターチェンジの出入交通量をみると、全体では平成16年度以降増加傾向にあり、平成18年度には約426万台となっています。

また、3か所のインター別にみると、甘木インター、朝倉インター、杷木インターの順に交通量が多くなっており、それぞれ同程度の割合で増減しています。

＜甘木・朝倉・杷木IC出入交通量の推移＞



資料：西日本高速道路株式会社 九州支社 久留米管理事務所

4 基礎調査結果からみる朝倉市の観光の状況

（1）アンケート調査の実施概要

①目的と位置づけ

本計画の策定にあたって、市民の朝倉市観光に対する意識・行動や、観光客（来訪者）の朝倉市に対する志向・実態やニーズを把握し、策定の基礎資料とすることを目的に実施しました。

②市民対象調査の実施状況（平成19年8月10日～8月25日）

調査対象者	朝倉市在住の15歳以上の市民2,000名 ○甘木地域（旧甘木市）：700名 ○朝倉地域（旧朝倉町）：700名 ○杷木地域（旧杷木町）：600名
調査方法	郵送配布・郵送回収、本人記入方式 ※諸事情により本人記入が困難な場合は、家族等による代行記入
回収結果	配布数：2,000 有効回収数：531 有効回収率：26.6%

③朝倉市来訪者対象調査の実施状況（平成19年8月17日～8月21日）

調査実施場所	甘木地域、朝倉地域、杷木地域の観光拠点
調査対象者	朝倉市民を除く朝倉市来訪者
調査方法	書き取り方式及び聞き取り方式
回収結果	○甘木地域：84 ○朝倉地域：122 ○杷木地域：131 計 337

④近隣自治体来訪者対象調査の実施状況（平成19年8月17日～8月21日）

調査実施場所	近隣自治体（うきは市、筑前町、東峰村、日田市）の観光拠点
調査対象者	朝倉市民を除く近隣自治体（4市町村）来訪者
調査方法	書き取り方式及び聞き取り方式
回収結果	○うきは市：89 ○筑前町：18 ○東峰村：36 ○日田市：102 計 245

(2) ヒアリング調査の実施概要

①目的と位置づけ

朝倉市の観光に関わる諸団体を対象に、現場における現状や課題、今後の取り組みの可能性を生の声から把握することを目的に実施しました。

調査の実施状況

調査対象者	朝倉市内の観光関連団体（10 団体）
調査方法	①ヒアリングシートの配布 ②聞き取りの実施

調査項目（ヒアリングシート）

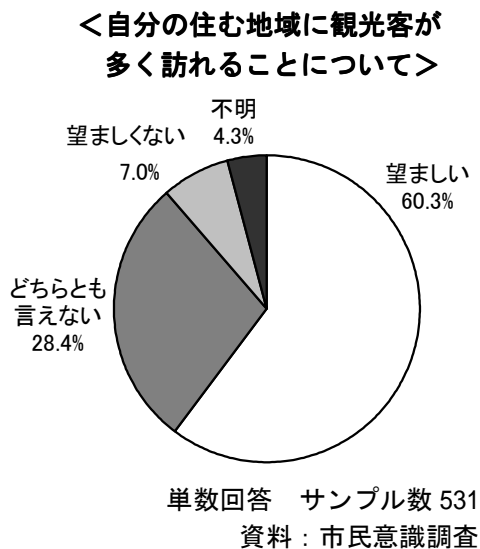
1. 活動内容について
 - (1) 現在の取り組み・事業内容（誰を対象に、いつ、何を、どこで）
 - (2) 地域や他の団体、行政との連携・協力の状況
 - (3) 活動上の問題点や課題、改善すべき点
 - (4) その他
2. 朝倉市の観光の現状
 - (1) 観光客と接していて感じること
 - (2) 市民の「おもてなし」の現状
 - (3) 朝倉市の観光振興の課題
 - (4) その他
3. 今後の方向性・可能性について
 - (1) 当該団体の今後の取り組み・役割
 - (2) 市民に期待したいこと
 - (3) 朝倉市の観光振興のあり方（今後の方向性・可能性）
 - (4) その他
4. 「朝倉市観光基本計画」に対する意見
 - (1) 計画に盛り込むべき視点・考え方
 - (2) 特に推進すべき取り組み
 - (3) その他
5. その他の意見や要望など

（3）観光振興に対する市民意識

①観光振興に対する市民の関心

観光振興に対する市民の関心は全般的に低い傾向にあるようです。これは、合併後間もないことも影響していますが、秋月地区や原鶴温泉等以外の地域では、市民の観光地としての意識が低くなっていることも要因と考えられます。

また、地域に観光客が多数訪れることで、市民の生活環境に与える影響・問題が少なからずあり、その対策や市民理解が必要となっています。



＜ヒアリング調査からの関連意見＞

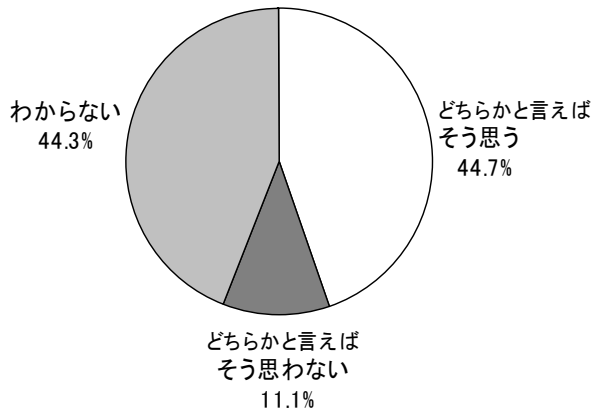
- ・市民に観光地としての意識は薄い。
- ・観光地に住んでいても、関わりのない人は観光に対する理解が低い。
- ・市民意識が一本化していない。
- ・多くの市民は休日の渋滞などを迷惑に感じているのではないだろうか。
- ・現状では、「観光地」という意識を持っているのは、秋月、三連水車、原鶴ぐらいではないか。
- ・合併して、まだ旧1市2町の一体感が乏しいイメージがある。

②観光資源に対する認識

市民の観光振興に対する意識の低さの要因の一つに、自分のまちの魅力を知らない、気づいていない市民が多いことがあげられます。

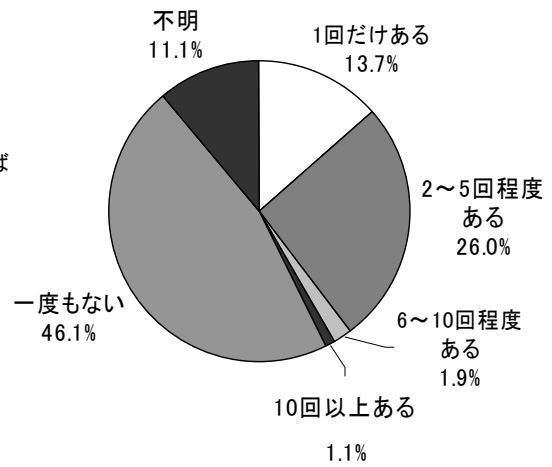
合併により市域が拡大したこともありますが、子どもの時から地域の行事や地域の歴史に触れる機会が少なければ、地元への興味や愛着が育ちにくくなることは必然であり、地域にふれあう機会を通じたまちの魅力の再認識・再発見が必要となっています。

＜朝倉市は観光地として
魅力的だと思うか＞



単数回答 サンプル数 517
資料：市民意識調査

＜最近1年間に遊びなどで
市内各地に訪れたか＞



単数回答 サンプル数 517
資料：市民意識調査

＜ヒアリング調査からの関連意見＞

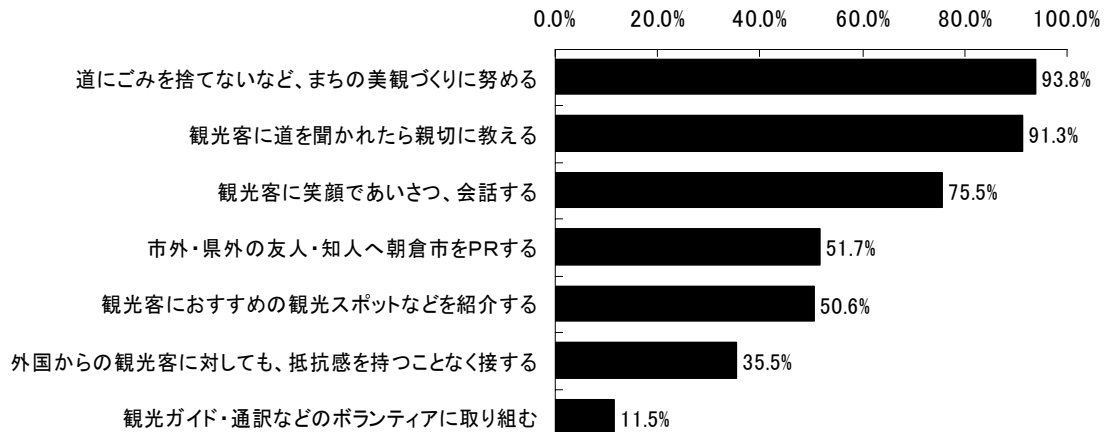
- ・ 合併後、市内の他地域のことをよく知らない人が多い。
- ・ 観光ボランティアを始めて、地域に愛着を持つようになった。
- ・ 地元の人ほとんど歴史・文化などを知らないと思う。
- ・ 地元の人の中には、有名なお祭りなどでも行ったことがなく、TVで初めてみるという人もいる。
- ・ 地元の人ほど、地元のことを知らない。
- ・ 地元でも、若い世代（特に男性）は観光地に来たことがない人も多い。
- ・ 都市圏の人たちの方が、地元の人より詳しいときがある。
- ・ 合併もあり、行政もまち全体のことをよく知らない状況がある。

③観光客に対するおもてなしの意識

来訪者が受ける朝倉市民のおもてなしの印象は大変よく、市民の間にもまちの美しい景観づくりや道案内、あいさつ・会話などは積極的に行っていく意識が見受けられます。

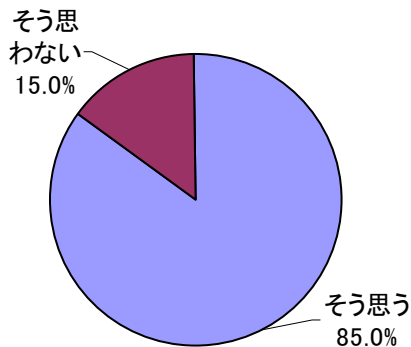
しかしながら、これらはもともと市民が持つ気質によって支えられている面も大きいものと考えられ、市民が観光振興における“おもてなし”の大切さを理解し、もっと発展的な行動に移すことにより、朝倉市のイメージのさらなる向上が期待されます。

＜市民自身がおもてなしとしてできること＞



それぞれ単数回答 サンプル数 501～517
資料：市民意識調査

＜地元の人々の人情が豊かであると感じたか＞



単数回答 サンプル数263
資料：朝倉市来訪者意識調査

＜ヒアリング調査からの関連意見＞

- ・朝倉市の人々は人柄がよく、穏やかに接するので、おもてなしの心は持っていると思う。今後、そうした意識もさらに芽生えてくるのではないかと。
- ・今のところ、市民は他の地域の人に対してどうあるべきかなど考えていないと思う。ただし、よそから来た人には積極的にあいさつをしてくれる。地元への情が厚い人も多い。
- ・市民には、おもてなしという意識がまだまだ少ない。

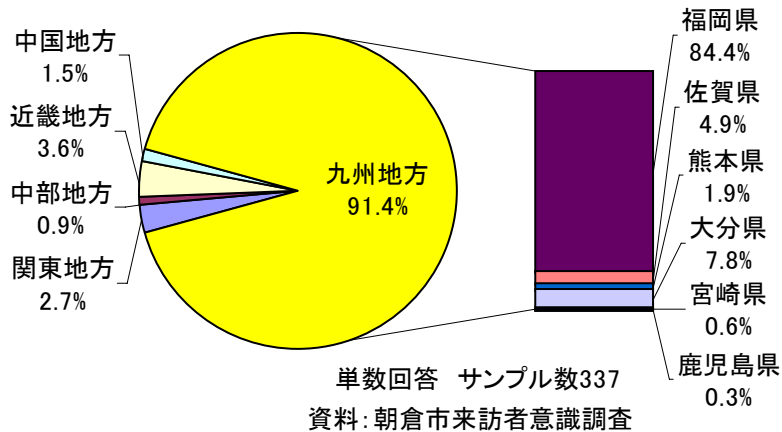
（2）観光客の動向

アンケート調査（朝倉市来訪者対象調査）結果からみると、朝倉市への来訪者は、同じ九州地方からが9割以上を占め、その中でも大多数が県内から訪れています。恵まれた道路環境を背景に、福岡都市圏からの日帰りにちょうどよい距離に位置していることから、近年は特に日帰り観光客の占める割合が増えています。

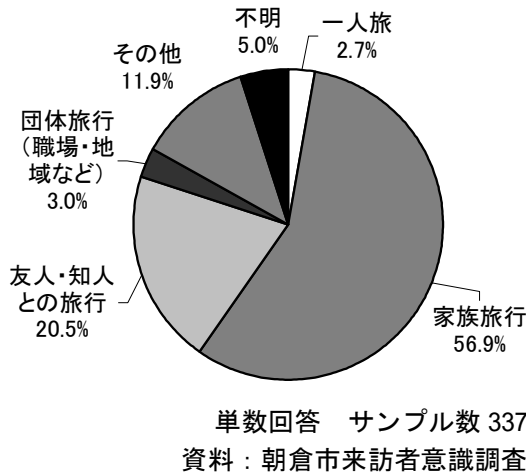
また、来訪の形態については、団体旅行は極めて少なくなっており、家族や友人との来訪が約8割を占めています。

こうした観光客の動向については、逐一把握に努め、柔軟な観光振興に取り組むことが望まれます。

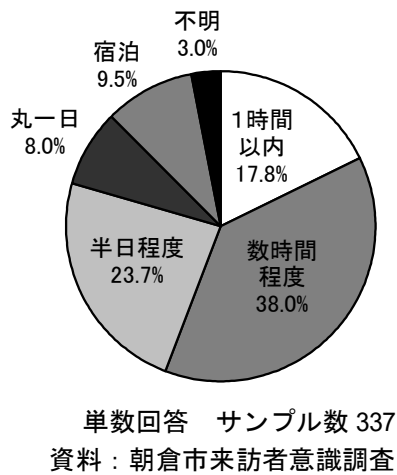
<どこから来訪したか>



<来訪の形態>



<来訪の予定>



<ヒアリング調査からの関連意見>

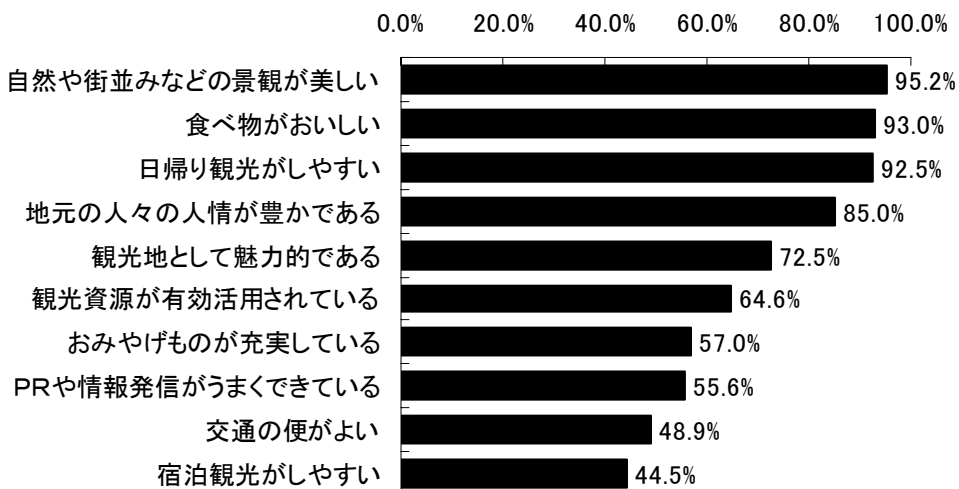
- ・ 秋月には、若い人も多く訪れている。
- ・ 「秋月」という名前がきれいで、女性が好みそう。
- ・ 関西方面からだと秋月、県内の人だと三連水車が有名なようだ。
- ・ 日帰り客を帰してしまっているのはもったいない。
- ・ 原鶴温泉は立ち寄りしにくいなど、敷居の高いイメージがあるようだ（日帰り客が多いのに、宿泊客以外を受け入れないところが多い）。
- ・ 来訪客の8割～9割以上は北九州・福岡都市圏から。その内の8～9割の方がマイカーで来ている。日帰りなので、大きな消費は見込めないのが現状。
- ・ 福岡都市圏から一般道をドライブしながら来ると、朝倉市が一番ぎりぎりの場所。最終目的地はここで、その後Uターンする人が多い。
- ・ 原鶴温泉へ来るお客さんは、土曜日は多いが、平日は少ない。
- ・ 全体的に旅行形態が変わってきているのを感じる（団体旅行から個人旅行など）。

（3）観光客の志向と朝倉市の強み

来訪者にとって、朝倉市は「自然・街並み景観が美しい」、「食べ物がおいしい」、「日帰り観光がしやすい」といった印象が特に強い傾向にあります。

一方、遊びや小旅行等に出かける一般的なきっかけは、「温泉に入ったり、のんびり気分転換がしたい」、「おいしいものを食べたい」、「自然にふれたい」という思いが中心となっており、このような観光客の志向と来訪者に与える朝倉市の印象はマッチしていることがわかります。

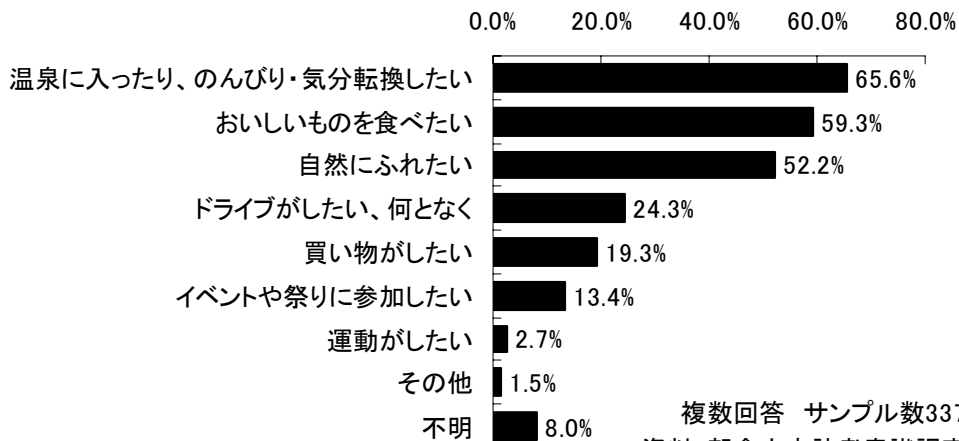
＜朝倉市の印象＞



それぞれ単数回答 サンプル数 261～293

資料：朝倉市来訪者意識調査

＜遊び、小旅行、イベント参加等の理由＞



複数回答 サンプル数337

資料：朝倉市来訪者意識調査

＜ヒアリング調査からの関連意見＞

- ・都市圏の人は「農村」や「田舎」を求めているのに、アピールが十分にできていない。もっとそうしたイメージを強めていくべき。
- ・ずっと地域に住んでいる人は気づかないが、外から来た人や転出経験がある人は、落ち着く、とても魅力のある場所と感じているようだ。
- ・観光客の朝倉市のイメージは、「田園都市」、「都会で失われた自然がある」。
- ・阿蘇や黒川温泉などとは違い、近場で自然に触れられる場所ととらえられている。
- ・花（ひまわり・コスモス）、フルーツ狩り、ホテルのイメージが強い。
- ・歴史目当ての観光客が減り、今は自然目当ての観光客の方が多い。
- ・秋月に来る人は、「いやし」を求めてやってくる。
- ・新鮮な野菜や果物を求めてくる人が多い。
- ・「田舎」を感じるために、ドライブで来る人もいる。
- ・「朝倉ブランド」による商品開発を行っていくべき。
- ・地産地消を取り入れるのはよいが、安定した供給が困難な現状もある。
- ・目的を持たずに訪れ、「どこに行けばよいか」と聞く人が増えた。
- ・福岡都市圏から、農産物の買い物を目当てに来る人が非常に多い（柿・巨峰など）。
- ・見る観光から、参加する観光、自然を求めるお客さんが増えてきた。季節ごとの花、フルーツ狩りなどがクローズアップされている。

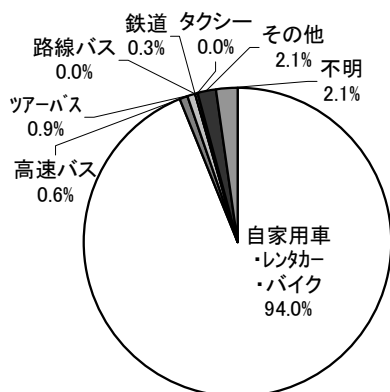
（４）サービスの状況

①公共交通の状況

来訪者の交通手段は、ほとんどが「自家用車・レンタカー・バイク」となっており、公共交通手段による来訪は少ない状況にあります。

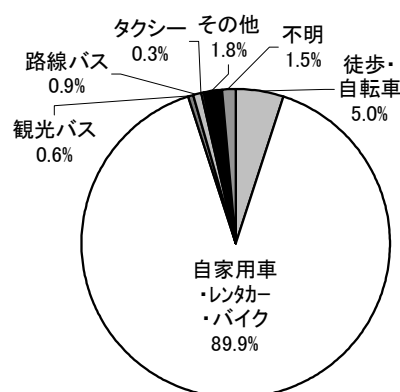
また、自家用車以外の来訪の場合、移動に不便な点が多いという声が多く聞かれており、遠方からの来訪・宿泊客の確保の点からも、公共交通サービスの充実が望まれます。

＜来訪者の交通手段＞



単数回答 サンプル数 337
資料：朝倉市来訪者意識調査

＜市内での交通手段＞



単数回答 サンプル数 337
資料：朝倉市来訪者意識調査

＜ヒアリング調査からの関連意見＞

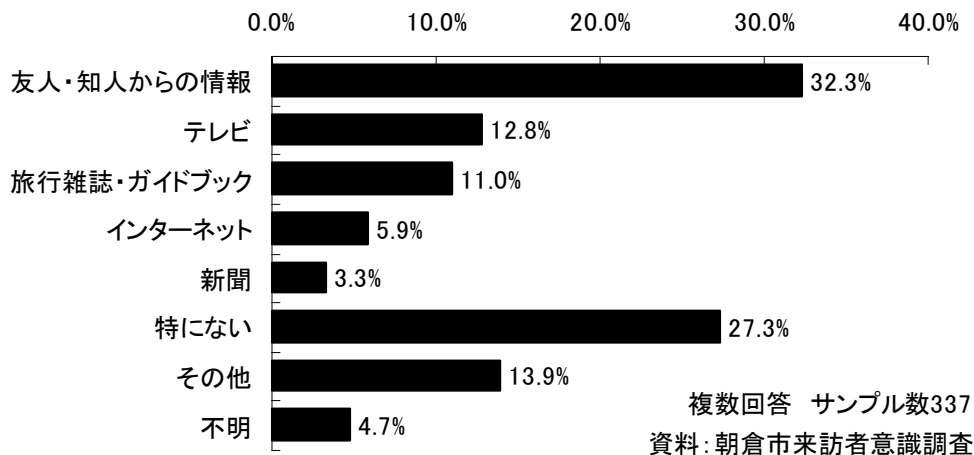
- ・朝倉市まで来るのは便利だが、着いてからの交通の便が非常に悪い。市内の交通対策は大きな課題。
- ・回りたい所がたくさんある場合、公共交通機関で全部対応するのは難しい。
- ・宿泊する人は交通機関で来る場合が多いので、充実が必要。

②情報提供の状況

朝倉市に来訪するきっかけとなった情報は「友人・知人からの情報」が多く、口コミを中心とした情報の効果の高さをうかがわせます。

現時点では、広告物における効果はあまり高いとは言えないほか、インターネットも情報源となっていない状況がうかがえ、今後の充実が望まれます。

＜来訪のきっかけとなった情報＞



＜ヒアリング調査からの関連意見＞

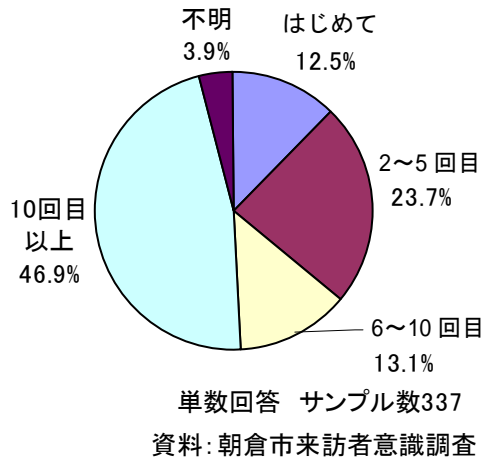
- ・観光資源はたくさんあるが、それらのパンフレットや歴史などに関する説明が不足している。
- ・いろいろな主体がばらばらに情報発信をしており、お客様への情報提供の一元化をどうするか課題。
- ・旧市町ごとの観光ポイントをアピールしなければならないというイメージが強すぎて、一つひとつがぼやけているかもしれない。

③観光地の魅力の状況

観光地の魅力を測る指標の一つとして、来訪者のリピート率があげられますが、朝倉市では近隣からの日帰り観光が多いこともあり、リピート率が高いようです。

今後とも、来訪者の志向と動向をとらえ、観光地としての魅力を磨き上げていくことで、来訪者・来訪回数の増加を図ることが望まれます。

＜これまでの来訪回数＞



＜ヒアリング調査からの関連意見＞

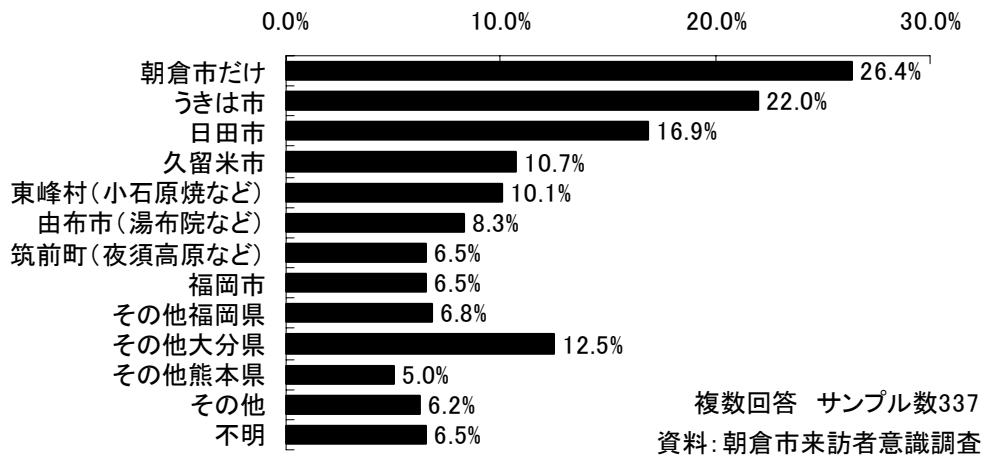
- ・よいところをアピールしていくことだけでなく、さらに磨いていくことも重要。
- ・川が今のところ観光に十分には活かされていない。
- ・川のしかけづくりや遊歩道の活用方法についても話は出ているが、実現には至っていない。
- ・歴史的なものはたくさんあるが、観光には直接結びついていないものも多い。
- ・山の駅は、眺めは抜群だが、アクセスの問題もあり、観光スポットとしては少し弱い。

(5) 広域連携の必要性

朝倉市の周辺には、観光地として魅力的な自治体が多くあり、朝倉市と他の観光地を組み合わせた来訪形態が多くなっているようです。

道路環境が充実した朝倉市の性格からしても、広域的な連携により観光振興の相乗効果を生み出していくことは重要な視点となっています。

＜朝倉市以外にどこへ行くか(行ったか)＞



＜ヒアリング調査からの関連意見＞

- ・観光客にとって、市としてのイメージや枠組みは関係ない。うきは市や久留米市などとあわせて、一体的にとらえている人が多い。
- ・周辺のまちに温泉施設ができた影響は大きい。原鶴温泉利用者の減少につながっている。

第6章 計画の構成イメージ

朝倉市観光基本計画

将来像
【“だんだん”あさくら物語】

基本的な方向性

「感」あさくら - 水・緑・空気を感じる観光振興 -

「楽」あさくら - 多彩な歴史・文化を楽しむ観光振興 -

「味」あさくら - 食と農・温泉を味わう観光振興 -

計画内容

施策（各論）

- 1 観光資源の活用
- 2 おもてなしの仕組みづくり
- 3 情報発信の充実
- 4 観光客に配慮した環境づくり
- 5 観光振興の推進体制づくり

重点プロジェクト

資源活用・魅力向上
プロジェクト

おもてなし・環境
プロジェクト

情報・交流
プロジェクト

連携・推進体制
プロジェクト



ひまわり（杷木）



目鏡橋

第2部 総論（計画の基本的な考え方）

- 第1章 朝倉市観光の将来像
- 第2章 基本的な方向性
- 第3章 計画の目標の考え方

第1章 朝倉市観光の将来像

計画の推進を通してめざしたい「朝倉市観光の姿」として、将来像を以下のように設定します。

“だんだん” あさくら物語

※「だんだん」：朝倉地方の方言で、「ありがとう」の意味がある。「どうもありがとう」の「どうも」に近く、関西弁の「おおきに」にあたる。古くに使われていた「段々有難う」という会話表現に由来。

将来像に込める想い

朝倉市は、豊かな自然（水・緑・空気）、歴史・文化、食と農や温泉、そして人情豊かな地域性（人）など、多彩な地域資源（観光資源）を有しています。これらを最大限に活用して、新市として観光振興の推進に取り組み、朝倉市観光の将来像である“だんだん” あさくら物語の実現をめざします。

○「だんだん」とは…

「だんだん」という言葉には、大きく3つの意味を込めています。

- ① 朝倉地方の方言で「ありがとう」の意味があり、「来てくれてありがとう」「迎え入れてくれてありがとう」といった、人に対する感謝の気持ち、さらには、地域の宝である資源に対しても誇りと感謝の意識を持ち、訪れる人・住んでいる人が魅力を感じるまちをめざします。
- ② 「次第に」の意味で、みんなで力を合わせて、ゆっくりでも、だんだんまちを良くしていこうという想いが込められており、着実に前進する前向きなまちをめざします。
- ③ 「暖々（だんだん）」、つまり「あたたかい」の意味で、心温まるおもてなしや温泉など、訪れる人をあたたかく迎え入れるふれあいの観光地をめざします。

○「あさくら」とは…

「朝倉市」あるいは「朝倉路」を意味しており、それぞれの地域が個性を発揮しながらも「あさくら」の一体感を醸成するとともに、「来て良かった」、「泊まって良かった」、「住んで良かった」、「あさくらが一番」と思える心のふるさとをめざします。

○「物語」とは…

「計画そのもの」、「朝倉市観光の青写真」、「ストーリー」を表現しており、観光客や市民の夢の実現をめざします。

第2章 基本的な方向性

朝倉市の観光振興を図る上で大切にしたい、計画全体に係る基本的な考え方を以下のように設定します。

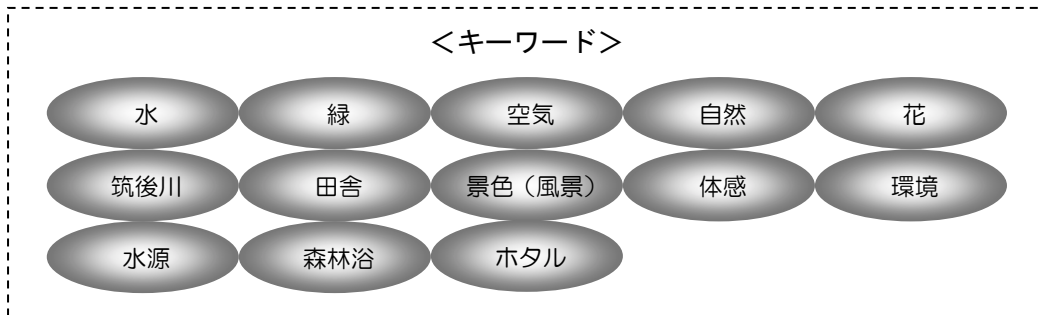
「感」あさくら - 水・緑・空気を感じる観光振興 -

「楽」あさくら - 多彩な歴史・文化を楽しむ観光振興 -

「味」あさくら - 食と農・温泉を味わう観光振興 -

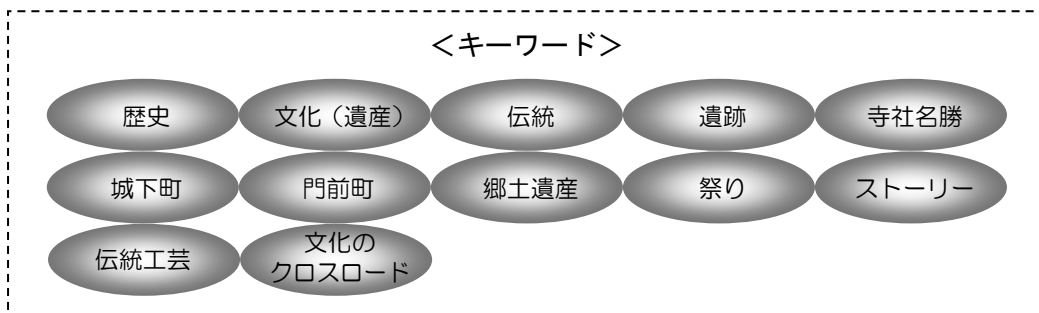
1 「感」あさくら - 水・緑・空気を感じる観光振興 -

水をはじめとして、緑や空気など、朝倉市ならではの豊かで多様な自然環境を重要な観光資源として位置づけ、観光客が自然を見て、聞いて、触れて、そして感じることでできるホンモノ志向の観光地づくりをめざします。



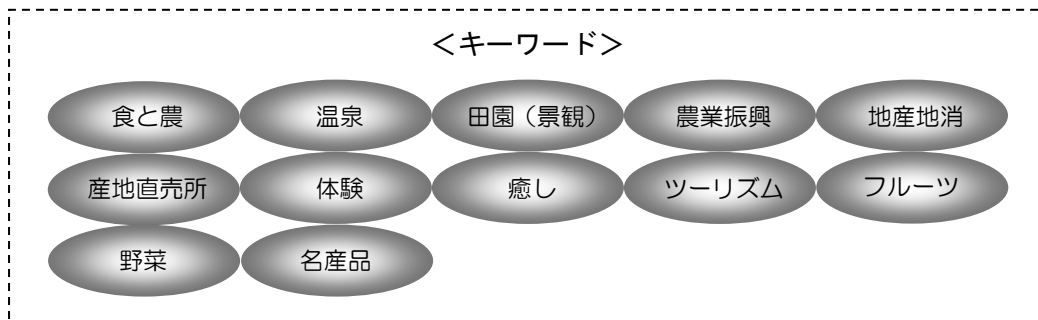
2 「楽」あさくら - 多彩な歴史・文化を楽しむ観光振興 -

城下町秋月（秋月城跡）や三連水車群などの名所旧跡をはじめとする、朝倉市の多彩な歴史・文化を重要な観光資源として位置づけ、これらの個々の魅力と連携を高めながら、観光客が何度も来て楽しめる、テーマ性・ストーリー性のある観光地づくりをめざします。



3 「味」あさくら - 食と農・温泉を味わう観光振興 -

朝倉市の基幹産業である農業と豊富で新鮮な食物、そして福岡県随一の湧出量を誇る原鶴温泉をはじめとする温泉名所を重要な観光資源として位置づけ、観光客がゆったりとした時間の中で、朝倉市の魅力を体と心で味わうことのできる満足度の高い観光地づくりをめざします。

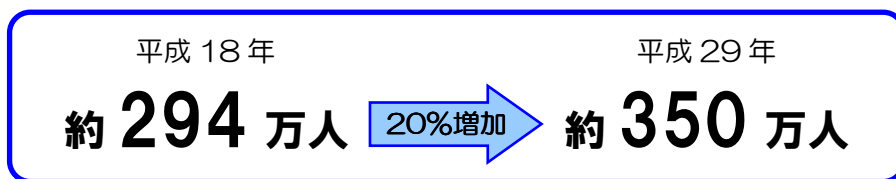


第3章 計画の目標の考え方

「第1次朝倉市総合計画」(平成20~29年度)では、観光振興分野(交流分野)における目標数値として、主要観光施設の入込客数の増加を掲げています。

本計画においても、総合計画との整合を図る観点から、同様に以下の目標指標を設定します。

<目標指標：主要観光施設の入込客数>



また、今後は、観光入込客数や観光消費額といった量的指標の増減に留意しつつも、それのみにとらわれるのではなく、朝倉市観光の質的な向上が重要です。本計画の推進を通じ、来訪者や市民の観光を取り巻く満足度(実感)の向上をめざします。

第3部 各論（分野別の取り組み）

- 第1章 観光資源の活用
- 第2章 おもてなしの仕組みづくり
- 第3章 情報発信の充実
- 第4章 観光客に配慮した環境づくり
- 第5章 観光振興の推進体制づくり

＜施策の体系＞

章	節	「感」「楽」「味」別の施策概要
第1章 観光資源の活用	1 観光資源の創出	
	2 イメージづくりの推進 (地域ブランド力の強化)	
	3 体験・学習型観光の推進	
	4 観光産業の振興	-
第2章 おもてなしの仕組みづくり	1 市民意識の醸成（理解の促進）	-
	2 市民参加の促進	-
	3 人材の育成	-
	4 交流人口の増加	-
	5 外国人観光客来訪の促進	-
第3章 情報発信の充実	1 情報提供の推進	-
	2 観光プロモーションの推進	-
第4章 観光客に配慮した環境づくり	1 環境・景観の保全	
	2 観光関連施設の整備	-
	3 交通環境の整備	-
第5章 観光振興の推進体制づくり	1 地域間ネットワークの形成	-
	2 広域連携の推進	-
	3 関連諸団体との連携体制の構築	-

第1章 観光資源の活用

1 観光資源の創出

（1）現状・課題と方向性

「観光」の語源は、中国の古典『易経』の“国の光を観る”にあると言われてい
ます。つまり、特定の名所だけではなく、朝倉市の自然・文化・歴史・産業・人等
を含めた、まちの営みそのものが、観光の資源となりうるととらえることができま
す。

しかし、こうした考え方に基づく観光資源は、朝倉市に住んでいる私たちにとっ
てはなかなか気づきにくいものであり、現在十分な観光資源の創出ができてい
るとは言えない状況にあります。

現代の観光を取り巻く時代の潮流を的確にとらえ、今一度、観光の原点に立ち戻っ
て、朝倉市に潜在化している観光資源の創出・発掘を進めていく必要があります。

（2）施策の方向

- ① 筑後川、農村原風景、ダム等、これまで単に自然景観や設備としてとらえ
られてきたものの中にも観光資源として価値の高いものがあることを再認
識し、その保全・活用を進めます。
- ② 朝倉市に数多くある寺社や地域の行事・伝統、その他歴史・文化的資源に
ついて、育成と保全に努めながら、観光資源としての活用を進めます。
- ③ 農産物が観光資源として有益であることを再認識し、その開発等に努めま
す。
- ④ 荒廃地等についても、活用の方法によって観光資源に転じられることを認
識し、その活用を進めます。
- ⑤ 市内及び他地域のさまざまな観光資源を1つのテーマで結びつけ、ストー
リー性を持たせた「テーマ型観光」を推進します（次ページ表参照）。

「テーマ型観光」のポイント

- 1つの観光資源が持つさまざまな顔を活用する。
- ストーリーに沿った観光スタイルを提示することにより、さまざまな目的を持って来訪した観光客を各地点に誘導する。
- 市内で完結するストーリーに限らず、広域的な視点でストーリーを紹介することで、相互にそのテーマに興味を持つ観光客の増加とリピートにつなげる。
- テーマで各資源を結びつけることにより、地域内及び広域的な連携につなげる。

<テーマ型観光の例（テーマ：水の旅）>

	朝倉市の資源			他自治体の資源
	「感」あさくら (水・緑・空気)	「楽」あさくら (歴史・文化)	「味」あさくら (食と農・温泉)	
水の旅（春）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筑後川 ・ 稚鮎放流祭 ・ 筑後川開き ・ ダム <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビール工場 ・ 酒造工場 ・ あまぎ水の文化村 ・ たかき清流館 ・ 目鏡橋 ・ 桂の池跡 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蔵開き ・ 温泉 ・ いちご狩り <p style="text-align: right;">など</p>	<p>【複数自治体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筑後川 <p>【うきは市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 棚田 ・ 滝ノ滝公園
水の旅（夏）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 堀川の三連水車群 ・ 山田井堰 ・ 鵜飼い ・ ホタル ・ 筑後川 ・ ダム <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花火大会 ・ ビール工場 ・ 酒造工場 ・ あまぎ水の文化村 ・ たかき清流館 ・ 目鏡橋 ・ 桂の池跡 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 棚田 ・ 梨狩り ・ りんご狩り ・ ぶどう狩り ・ 魚のつかみ取り ・ 温泉 ・ 川魚料理 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大石堰 ・ 清水湧水 <p>【筑前町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 曾根田親水公園 <p>【東峰村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 棚田 ・ 棚田親水公園
水の旅（秋）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 堀川の三連水車群 ・ 山田井堰 ・ 鵜飼い ・ 筑後川 ・ ダム <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビール工場 ・ 酒造工場 ・ あまぎ水の文化村 ・ たかき清流館 ・ 目鏡橋 ・ 桂の池跡 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 棚田 ・ 梨狩り ・ りんご狩り ・ ぶどう狩り ・ 柿狩り ・ 農業まつり ・ 温泉 ・ 川魚料理 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柳川市 ・ 川下り <p>【久留米市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筑後川発見館 ・ 筑後川クルーズ
水の旅（冬）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筑後川 ・ ダム <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビール工場 ・ 酒造工場 ・ あまぎ水の文化村 ・ たかき清流館 ・ 目鏡橋 ・ 桂の池跡 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温泉 ・ いちご狩り <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日田市 ・ ビール工場 ・ 鵜飼い ・ フィッシングパーク ・ ダム遊覧船 <p style="text-align: right;">など</p>

<テーマ型観光イメージマップ（テーマ：水の旅）>



策定委員会の様子

(3) 「感」「楽」「味」別の施策概要

「感」あさくら（水・緑・空気）

- ① 筑後川の有効活用（イベント・川遊び・川下り観光・遊歩コースの設定等）
- ② 農村原風景の活用
- ③ ダムの活用（憩いの湖として）
- ④ その他、四季の移ろいをとらえた自然観光サービスの立案（冬の夕日の活用など）

「楽」あさくら（歴史・文化）

- ① 歴史・文化資源（重要伝統的建造物群保存地区を含む）の保全推進
- ② 地域の祭り、行事、昔話等の振興や復興（マップの作成も含む）
- ③ 寺社の活用（座禅体験や精進料理の提供など）

「味」あさくら（食と農・温泉）

- ① 年間を通じた特産の農産物の開発
- ② 荒廃地の有効活用（農業体験の場や市民農園、花の景観づくりなど）
- ③ スポーツ活動（サイクリング等）と温泉のパッケージ化

(4) 市民ができること

実際に散策してみるなど、身近な地域をもう一度見直し、第三者の視点に立って、埋もれている地域の宝（観光資源）を発掘しましょう！

市民ワークショップのアイデア！

～ 観光資源の創出 ～

- ・ 国宝の南禅寺に関する歴史を広く広報する。
- ・ 筑紫舞をPRする。
- ・ 筑後川中流域と四季の眺めを活用する。
- ・ 秋に山田井堰付近で月見の会をする。しっとり優雅なひとときをつくる。
- ・ 恵蘇八幡宮での正月カルタ会を普及する。
- ・ 筑後川を活かし、親水公園を充実させる。
- ・ れんげ米・彼岸花・紅葉・銀杏・ホタルなど、多くの資源を活用する。
- ・ 朝倉の花、緑、場所、木を全国にアピールする。
- ・ 柿（富有柿）のアピールを強化する。

2 イメージづくりの推進（地域ブランド力の強化）

（1）現状・課題と方向性

朝倉市には、現時点でも多くの観光資源があります。特に1市2町の合併を経て、その多様さに関しては、他地域に劣るものではなく、県内においても有数のものであると言えます。

しかしながら、質や個性が優先される現代において、その多様さが逆に朝倉市のイメージを見えにくくしている側面もあり、現状では他地域との差別化が十分に図れていない状況にあります。

近年では、市観光協会主導のもと、「花めぐり・味めぐり・湯めぐり」というわかりやすいコンセプトでPRを進めた結果、効果が得られたという好事例もあるほか、原鶴温泉の泉質であるアルカリ性単純温泉と硫黄泉が美肌効果に優れているという専門家の評価も得られており、今後、今ある資源の付加価値をさらに高め、朝倉市としてのオリジナルイメージを確立していくことが、観光振興の重要なポイントとなっています。

（2）施策の方向

- ① 「感」「楽」「味」の3拍子がそろった、観光地としてのイメージづくりを徹底して進めます。
- ② できるだけ観光客が長く滞在し、さらにリピートへとつなげるため、朝倉市の特性をとらえたニューツーリズム[※]の開発・推進を進めます。
- ③ 地域ブランドとして有力な地場産品を活かし、商品やメニューの開発及びネーミングや販売促進等を進めていきます。
- ④ ダブル美肌効果としての評価が得られた原鶴温泉について、その優れた泉質をブランド化の柱として各種の付加サービスを企画していきます。

※ニューツーリズム：単なる観光地めぐりの旅行に対して、地域特有のテーマ性を持ち、体験要素を取り入れた新しいタイプの旅行を指す。

(3) 「感」「楽」「味」別の施策概要

「感」あさくら（水・緑・空気）

- ① ニューツーリズムの開発・推進（グリーン、エコ、フラワー、フォレスト、ウォーター*など）
- ② 花のまちづくりの推進（重点モデル地区の設定など）
- ③ 「朝倉3景」などといった景観に優れた地域の選定とブランド化

「楽」あさくら（歴史・文化）

- ① 鶴飼いの振興とブランド化、鶴飼い紹介ホームページの開設
- ② 神話や歴史の逸話を活用したイメージづくり

「味」あさくら（食と農・温泉）

- ① 地場産品を活かした「あさくらの味・食づくり」の推進
- ② あさくらのお土産認定制度の検討
- ③ ヘルスツーリズム*の開発・推進
- ④ 原鶴温泉の「ダブル美肌の湯」の積極的PR

※グリーンツーリズム：農村や漁村での滞在や自然をテーマとする体験要素を取り入れた新しいタイプの旅行。

エコツーリズム：環境や自然との調和をテーマとする体験要素を取り入れた新しいタイプの旅行。

フラワーツーリズム：花とのふれあいをテーマとする体験要素を取り入れた新しいタイプの旅行。

フォレストツーリズム：森林をテーマとする体験要素を取り入れた新しいタイプの旅行。

ウォーターツーリズム：水環境をテーマとする体験要素を取り入れた新しいタイプの旅行。

※ヘルスツーリズム：健康をテーマとする体験要素を取り入れた新しいタイプの旅行。

(4) 市民ができること

朝倉市にしかない、特別な場所や食べ物などについて、知り合いの人に紹介したり、連れて行ってあげるなど、積極的に市内外の人たちにPRしましょう！

市民ワークショップのアイデア！

～ イメージづくりの推進（地域ブランド力の強化）～

- ・ 「卑弥呼の里」のイメージづくり（歴史・文化）。
- ・ 歌の駅をつくる（百人一首の第一歌の碑がある）。
- ・ 百人一首カルタ会をPRする。
- ・ ハゼ並木を復活させる（江戸時代はハゼの生産が多かった）。
- ・ 富有柿の日本一の生産高と味のよさをPRする。
- ・ 朝倉市のキャラクターを作成する。
- ・ 町並みをレトロ調に整備する。
- ・ 花の生産地として、市全体で花のイベントを企画する。
- ・ 朝倉市の名所や農産物のカルタを作成する。
- ・ 「田舎」を売り出す（山や川、棚田など）。
- ・ 朝倉市出身の女優の美肌セミナーを開催する。
- ・ 温泉の廃湯を利用して、湯けむりを演出する。
- ・ 「水」ツアーを企画する。

3 体験・学習型観光の推進

（1）現状・課題と方向性

近年、観光の形態は団体客から個人客へと大きく変化してきており、それに伴って、個人の来訪目的の嗜好が多様化しています。中でも、従来の「見る」こと中心の観光から、「体験する」「学習する」ことを求めて来訪する観光客が増えてきています。

その点で言えば、朝倉市には、幅広い「体験」「学習」の要素を備えた資源が存在しており、観光客のニーズに応じられる可能性をたくさん秘めています。

今後は、ニーズをとらえたさまざまな体験・学習型観光の企画・立案と、その企画に基づき、地域住民を含めた関係者一体となった受け入れ体制の整備を進めていくことが必要となっています。

(2) 施策の方向

- ① グリーンツーリズムを中心として、水・緑・空気を活用した体験・学習型観光の推進を図ります。
- ② 自然を活用した体験プログラムの企画を立案し、その推進・充実に努めます。
- ③ 水辺環境を活用し、親水体験ができる機会の充実に努めます。
- ④ 豊富な歴史的資源・文化的資源を活用し、体験・学習型観光を推進します。
- ⑤ 地域の理解を得ながら、農村における暮らしや伝統食等を活用した体験・学習型観光を推進します。

(3) 「感」「楽」「味」別の施策概要

「感」あさくら（水・緑・空気）

- ① グリーンツーリズム（森林セラピー等を含む）の開発・推進
- ② 生き物観察等の企画・実施
- ③ 九州自然遊歩道の活用
- ④ 山・川等の自然資源の活用

「楽」あさくら（歴史・文化）

- ① ヘリテージツーリズム※の開発・推進
- ② 昔遊び体験等の企画・実施
- ③ 朝倉市の歴史舞台散策コースの設定

「味」あさくら（食と農・温泉）

- ① 荒廃地等を活用したアグリツーリズムの開発・推進
- ② スローフード※体験の推進（伝統食の再評価と新作料理の開発）
- ③ 農業生産過程見学の企画実施
- ④ 農村民泊の推進と受け入れ家庭（地域）の増加
- ⑤ パークゴルフ等スポーツ来訪型観光の充実

※ヘリテージツーリズム：「ヘリテージ」は「遺産」のことであり、産業遺産・生活遺産を観光の対象とする新しいタイプの旅行。

※スローフード：規格・標準化された生産ではなく、その土地の食文化・農業を大切にするための運動で、スローな食・農を起点に展開する生活全般を指す。

（4）市民ができること

あなたが持っている知恵や技術、田畑や山林などには、体験型観光の資源として有効活用できる可能性があります。同じ境遇にある人や趣味の合う人などと話し合ったり、積極的にPRしたり、活用方法について地域の中で意見交換をしてみましょう！

市民ワークショップのアイデア！

～ 体験・学習型観光の推進 ～

- ・ 朝倉地域のよさを味わえるよう、歴史コース、文化コース、自然コースなどを設定し、散策できるよう準備する。
- ・ 宮地嶽古墳・柿山から歴史を学ぶ場をつくる。
- ・ 三連水車と米づくりをPRする。
- ・ 歴史が勉強できるイベントを企画する（カルタ大会などをもっと拡大する）。
- ・ 押し花などの小物作り体験教室を開催する。
- ・ 水源地を訪ねて、水の大切さを知ってもらう（江川・寺内ダム）。
- ・ 原鶴の鶴飼いの歴史を学ぶ機会を設ける。川の「学校」。
- ・ 消費者の農業体験の機会を充実させる（農地を借りる）。
- ・ 筑後川河川敷でコンサートを開催する（屋形船を活用する）。
- ・ 種まきから収穫までの農業体験ツアーを企画する。
- ・ お菓子、陶芸、ガラス工芸などを体験型観光に取り入れる。
- ・ 原鶴放水路を利用した各種イベントを企画する。



策定委員会（フィールドワーク）

4 観光産業の振興

(1) 現状・課題と方向性

観光は、地域資源を活用し、地域内外から潤いを得、さらに波及効果として雇用の創出にもつながるなど、朝倉市を支える有力な産業になりうるものであると言えます。観光が産業として成り立たない限り、継続的な観光振興も望めないため、目的はあくまで入込客数ではなく、経済ベースの底上げであることを押さえておかなければなりません。

朝倉市の実態としては、商店街への来訪客の減少、宿泊型観光の伸び悩み、平日来訪の伸び悩みなどが大きな課題となっていますが、一方で直売所等における農産物の販売などは好調を維持しており、今後は強みと弱みの両面をとらえ、観光産業全体としての戦略的な振興策を講じていく必要があります。

(2) 施策の方向

- ① ニューツーリズムの開発・推進による観光産業の振興を図ります。
- ② 各経営体におけるサービスの質の向上促進とその支援を進めます。
- ③ ICT※を活用した販売経路等の確保を進めます。
- ④ 観光産業の振興に向け、商工会議所・商工会等の関係機関と行政の連携強化を図ります。
- ⑤ 各観光地と温泉・宿泊のパッケージ化を推進します。
- ⑥ 多様なニーズに対応する時間単位のモデルルートの立案を進めます。
- ⑦ 温泉における日帰り・立ち寄り客への対応強化を図ります。
- ⑧ 自然トレッキング※やスポーツなどの運動後の温泉利用を促進します。
- ⑨ 朝倉市の味どころを巡るミールクーポン※等の導入検討を進めます。
- ⑩ 朝倉市に根付く伝統産業や農業について、育成・充実を進めるとともに、見学や体験等観光資源としての活用に努めます。

ICT：Information and Communication(s) Technology の略で、情報通信技術のこと。

※ミールクーポン：ミールとは食事、クーポンとは冊子などの印刷物から切り離すことのできる券のこと。

※トレッキング：健康やレクリエーションを目的とした山歩きのこと。

（3）市民ができること

農産物などは生産地を確認し、地産地消に取り組みましょう！また、観光事業に携わる人は、観光客のニーズについて情報収集に努めましょう！

市民ワークショップのアイデア！

～ 観光産業の振興 ～

- ・ 歴史と伝統の甘味をPRする（果物、菓子、ハチミツ、黒砂糖、甘酒等）。
- ・ 工場見学を推進する（産業観光の連携）。
- ・ 日曜カフェを設置する。
- ・ 原鶴温泉での温泉感謝デーを設ける（市内高齢者を対象に）。
- ・ 指湯をつくる（手先の癒し）。
- ・ 「ミニミニオンパク（温泉パックツアー）」で資源を掘り起こす。
- ・ 足湯を整備する。
- ・ 旅館において、お茶・踊りのツアーを企画する。
- ・ ハーブ石鹸・柿石鹸をつくる（排水もきれいに）。
- ・ 温泉を利用して化粧水をつくる。
- ・ 「温泉ソムリエ」育成に取り組む（1泊研修をする）。



策定委員会（鶴飼い体験）

第2章 おもてなしの仕組みづくり

1 市民意識の醸成（理解の促進）

（1）現状・課題と方向性

観光産業は「ホスピタリティ産業」とも言われています。ホスピタリティとは、他人に対する「おもてなし」を基本とした考え方であり、人とのふれあいを楽しむ観光客が増えている中で、その精神は非常に重要なものとなっています。

朝倉市において、おもてなし役の中核を担うのは、観光振興に携わる関係者はもちろんのこと、何よりも観光客を迎え入れ、まちの雰囲気をつくる市民一人ひとりの役割が大切です。

しかし、実情としては、現在市民レベルでそのような意識が十分に醸成されているとは言えず、今後は観光振興に対する市民の理解を深めていく必要があります。特に、自分のまちの観光資源について認識があまりない人も多いことから、市民一人ひとりが朝倉市のことを知り、誇りに思うことが、おもてなしの心を育む重要なポイントになります。

（2）施策の方向

- ① 各種広報媒体やイベントなどを通じて、市民の環境美化意識の醸成を図ります。
- ② 観光客の増加に伴う市民生活への悪影響の解消対策とともに、市民の理解の促進を図ります。
- ③ 市民が自らのまちの資源を再発見・再認識できるよう、市民の市内観光地への来訪や学習を促進し、地元に対する誇りを持って、おもてなしの行動につなげます。

（3）市民ができること

まずは、来訪者へのあいさつからはじめましょう！道に迷っている観光客の方向がいたら、声をかけて教えてあげましょう。

市民ワークショップのアイデア！

～ 市民意識の醸成（理解の促進）～

- ・ 観光客を喜んで受け入れる意識づくり。
- ・ 観光客へのあいさつをしっかりと行う。
- ・ 笑顔であいさつし、親切に対応をする。
- ・ 甘木・朝倉・杷木の市民交流を行う。
- ・ 朝倉市の良さをまず家族で認識する。
- ・ 朝倉市の歴史を活用できる（知っている）市民を育成する。
- ・ 朝倉市が観光都市をめざすのであれば、市域意識の醸成が必要。

2 市民参加の促進

（1）現状・課題と方向性

観光振興において、市民が積極的に参加し関わることは、人とのふれあいを求めて訪れる観光客にとって、これ以上ないサービスになるとともに、市民参加が進むことでコミュニティの活性化にもつながるなど、さまざまな面で効果の高い取り組みであると言えます。

観光振興における市民意識の醸成とあわせ、その意識をより多くの行動につなげていくための取り組みが求められています。

（2）施策の方向

- ① 朝倉市が県内でも有数の観光地をめざすことを市民に向けて強力にPRし、そのための参加協力を呼びかけていきます。
- ② 観光に携わる関係者・市民に対する研修を実施します。
- ③ イベントへの市民アイデアの導入を図ります。
- ④ 民間事業者に対して、観光振興に資する社会貢献活動や取り組みを働きかけていきます。

（3）市民ができること

市内には、観光振興のためのボランティアの機会やイベント等における協働の場がたくさんあります。時間と興味のある人は、積極的に参加しましょう！

市民ワークショップのアイデア！

～ 市民参加の促進 ～

- ・ まちの駅に、お互いに手作りポスターを設置する。
- ・ 寺社名勝の名所・旧跡を活かし、ボランティアガイドが来訪者を案内する。
- ・ 希望者が観光地を案内できるような仕組みをつくる。
- ・ バサロ・水車公園で、児童・生徒に自分の作品を販売してもらう。
- ・ 市民参加のB&B（ベッド&朝食）型宿泊施設を広める。
- ・ 体験を提供する人の取りまとめ、研修機会を提供する。
- ・ 地域の観光スポット等において、住民の手で清掃作業に取り組む。
- ・ コミュニティを中心に、地域について学ぶ場を多く設ける。
- ・ 道路をいつもきれいにしていれば、空き缶・ゴミも捨てられる量が減るのでは。観光客も不快な気持ちになることなく楽しく過ごせる。
- ・ 農家の人達が普段食べている料理を紹介する（クッキング教室）。

3 人材の育成

（1）現状・課題と方向性

市民参加による観光振興を進めていくと同時に、その体制の中で、より多くの観光客のニーズにこたえていくためには、情報・知識・接客・技術などのスキルが望まれるところです。また、市民の中にはそういったスキルを身につけた人材が埋もれている可能性もあり、あわせて人材の発掘も必要となります。

市民の中には、すでに観光ボランティアとして活躍している人たちもいますが、今後ともより多くの人材を確保するための人材育成・発掘の取り組みや、一部有償化も視野に入れたボランティアのあり方などを検討していく必要があります。

（2）施策の方向

- ① ある分野における深い知識や技術を持つ地域の「達人」を発掘し、観光振興における協力を要請していきます。
- ② 観光に携わる市民ボランティアの養成・確保に努めます。
- ③ 市民による観光ボランティアの確保を図る上で、一定の基準のもとに有償ボランティアの導入を進めていきます。
- ④ 観光交流の推進を図るため、来訪者とボランティアをつなぐコーディネーターの養成・確保を進めます。
- ⑤ 朝倉市の「ご当地検定試験」の実施を検討し、合格者のボランティア協力等へつなげていきます。
- ⑥ 幼少のころからの郷土愛を育むため、子どもを対象とした地域学習の推進を図ります。
- ⑦ 自然探訪等を支援するインストラクターの配置を進めます。

（3）市民ができること

朝倉市では、これから観光振興のために協力してくださる人の育成に取り組んでいきます。「広報あさくら」等を注意深くご覧になってください。研修などで学習を重ねれば、自信が付き、もっと深く観光に携わることができます。積極的に参加しましょう！

市民ワークショップのアイデア！

～ 人材の育成 ～

- ・ 鵜飼観光の育成強化を図る（鵜匠さん、屋形船船頭さん）。
- ・ ボランティアガイド・体験インストラクター育成塾を開催する。
- ・ 既存の観光地へ研修に行き、よいところを取り入れる。
- ・ 研修生の受け入れを行う。
- ・ 後継者が帰ってくるまちづくり。
- ・ 公民館活動の中で、人材育成講座を開設する。
- ・ 小・中学生も巻き込み、観光ボランティアを育成する。
- ・ 小グループの立ち上げ、有償ボランティア・小口販売の糸口づくりに取り組む。
- ・ 朝倉市ガイドの人材の掘り起こしを行う（ママさんガイドなど）。
- ・ 朝倉市に「匠の会」を作り、伝統を継承する（人材育成）。
- ・ 地元の小・中学生に対する研修を行う。

4 交流人口の増加

(1) 現状・課題と方向性

交流人口とは、その土地に住む定住人口に対して、他地域から訪れる人のことを指し、観光客も交流人口の大きな要素です。

朝倉市への来訪者においては、ドライブの際に立ち寄ったり、週に1回は農産物を購入しに訪れたり、あるいは毎年開催されるイベントに来たりと、非日常的な観光とは少し違う、日常的な関わり方をされている人も多いのが特徴です。これは、朝倉市が福岡都市圏からちょうどよい距離感の位置にあることや、交流拠点が充実していることなどが影響していると考えられます。

このような来訪者は、団塊の世代の大量退職等を背景に、今後さらに増加するものと見込まれ、観光振興を底上げする一つのターゲットとしてとらえ、さらに身近な交流機会を提供していくことが望まれます。

(2) 施策の方向

- ① 市内外の人が交流するイベントの支援体制や関係機関の連携の強化を図ります。また、その際の既存施設の有効活用を積極的に進めます。
- ② 文化・スポーツ関連の全国大会・九州大会など、各種イベントの招致・開催を推進します。
- ③ 交流拠点としての「まちの駅」を活用した交流ソフト事業を積極的に展開していきます。
- ④ 筑後川をテーマとしたイベント等に重点的に取り組みます。
- ⑤ 都市部への働きかけを強化し、都市と農村との交流を促進します。

(3) 市民ができること

市内で開催されるイベントなどは、市民同士や市内外の人が交流できる絶好の機会です。積極的に足を運び、交流の機会を盛り上げていきましょう！

市民ワークショップのアイデア！

～ 交流人口の増加 ～

- ・ まちの駅間の連携を強化する（周遊する仕組み）。
- ・ 子連れで入店できる店を増加させる（おもちゃ、空間、カートの設置など）。
- ・ 若い女の子をターゲットに、ゆかたや下駄をレンタル、着付けをしてあげて湯の街を歩いてもらう。
- ・ 修学旅行生の受け入れ体制づくり。
- ・ 食べ歩きのできる街通りづくり。
- ・ フリーペーパーを作成する（割引券）。
- ・ B級グルメ（麺類、カレーライス、丼物など）を楽しんでもらう。

5 外国人観光客来訪の促進

（1）現状・課題と方向性

福岡県は、国内随一の東アジアの玄関口となっており、毎年多くの外国人観光客が訪れています。主な観光目的は「ショッピング、飲食、レジャー施設など」、次いで「旧跡、神社、仏閣」となっており、近年は朝倉市を代表する観光エリアの一つ、秋月地区へツアーで訪れる外国人観光客も増加しつつあるようです。

朝倉市は外国人観光客を迎え入れる上で、望ましい立地条件を有していますが、こういった動向に対して、市の受け入れ体制や市民の受け入れ意識はまだ十分とは言えず、特に市民の間には戸惑いも少なからずみられるようです。

朝倉市の地理的条件を踏まえると、外国人観光客は観光振興における重要なターゲットであり、その来訪促進に向けた受け入れ体制を整えていく必要があります。

（2）施策の方向

- ① 外国人観光客、特に東アジアからの来訪について、その受け入れ体制の強化を図ります。
- ② 必要に応じて、外国語の語学学習を関係者や観光ボランティアに対する研修等に取り入れていきます。
- ③ 外国人観光客が快く過ごすことができるよう、観光地における外国文化や生活様式への配慮を進めていきます。
- ④ 外国人観光客の来訪に対応するための案内看板等のサインへの配慮、外国語併記のパンフレット作成を進めます。

(3) 市民ができること

これからは、朝倉市でも外国人観光客が増えてきます。市民のみなさんにとっても、違う文化に触れられる貴重な機会となりますので、まずはあいさつなどの言葉を覚えながら、外国人の方と積極的に交流を持ちましょう！

市民ワークショップのアイデア！

～ 外国人観光客来訪の促進 ～

- ・ 韓国・中国など、北東アジアからの観光客を誘致する。
- ・ 接客用の外国語教室を開催する。



市民ワークショップ（甘木地域）



市民ワークショップ（朝倉地域）

第3章 情報発信の充実

1 情報提供の推進

（1）現状・課題と方向性

観光振興を図る上で、情報提供は観光客の行動を左右する重要な要素です。

朝倉市の観光情報は、各種窓口や広報媒体を使った提供が進められていますが、合併後間もないこともあり、新市としての統一感ある情報提供や道路の案内など、きめ細かさにおいてはまだ十分とは言えない状況にあります。

特に近年は、ICTを通じた情報収集を行う観光客も非常に多くなっており、あらゆる情報媒体、シチュエーションを想定した情報提供が求められています。そういった状況の中で、朝倉市の特性や観光振興におけるウィークポイントを見極め、優先順位をつけながら、戦略的な情報提供の推進を図っていく必要があります。

（2）施策の方向

- ① 四季を通じたデマンドタイプ※の情報発信を推進します。
- ② 主要交通拠点（駅・インターチェンジ等）からの誘導情報（サイン）の充実を図ります。
- ③ インターネットや携帯端末情報、ラジオ等、リアルタイムな市の情報提供を図る情報提供母体の設置を検討していきます。これらの端末を活用した情報提供にあたっては、常に新鮮な情報を維持するよう心がけるとともに、リアルタイムで風景映像を発信したり、インターネット上の商店街を構築したりと、情報通信技術を積極的に活用した工夫に努めます。
- ④ 来訪者の嗜好をとらえた散歩コースや地域マップ、広域マップ等の作成を随時進めます。特に朝倉市の特徴的な資源については、テーマ別マップの作成を進めます（歴史、花、ホテルなど）。
- ⑤ 歴史資源のゆえんやエピソードなど、ストーリー性のある情報提供を強化します。
- ⑥ 主体となる情報窓口の集約・一元化を図り、わかりやすい情報提供に努めます。

※デマンドタイプ：デマンドの直訳は需要、要求、請求。この場合「要求に沿った形の～」という意味となる。

(3) 市民ができること

どんなメディアよりも、あなたの口コミが最も有効な朝倉市のPR方法です。まちの自慢を積極的にいろいろな人に話しましょう！

市民ワークショップのアイデア！

～ 情報提供の推進 ～

- ・ ターゲット（年齢など）を細分化・明確化する。
- ・ 都市圏の高齢者を迎え入れる（ターゲット化する）。
- ・ パンフレット以外にも、朝倉地域付近の大きめの地図ボードを設置する。
- ・ 拡大案内図を設置する（ピーポート付近）。
- ・ 地域内すべての店に観光パンフレットを備える。
- ・ 主要な観光名所・史跡にパンフレットを設置する（パンフレット設置台）。
- ・ 写真好きの人のために、撮影スポットを紹介する。
- ・ 観光拠点に情報コーナーを設置する。各エリアの風景・イベント情報など。
- ・ 朝倉市の宝物をホームページやブログで紹介する。
- ・ 旬の食材を使った料理の情報を発信する（観光拠点、旅館、飲食店等で調理方法を紹介するなど）。
- ・ 地域の人たち（コミュニティ）にも、観光情報を提供する。
- ・ 季刊誌を発行する。
- ・ 都市圏の公共施設等にパンフレットを設置する。

2 観光プロモーションの推進

(1) 現状・課題と方向性

朝倉市には多くの観光資源がありますが、これらはまだ全国的に知名度が高いとは言えず、観光地としての朝倉市の認知度は、決して高くない状況にあります。

このような状況を打開するためにも、観光プロモーションの推進が重要であり、今後は特に、朝倉市の全国的な認知を牽引するキャンペーンの展開や、スポーツ施設・文化施設等が比較的充実している特性を活かしたコンベンション^{*}の企画・実施などを積極的に打ち出していく必要があります。

^{*}コンベンション：集会、社会団体などの代表者会議、博覧会や見本市などの大規模な催しのこと。

（2）施策の方向

- ① 朝倉市出身の著名人等の協力のもと、観光親善大使を任命するなど、知名度向上キャンペーンの展開を図ります。
- ② 市内外からのイベントモニターの募集等を行い、プロモーション戦略の強化を図ります。
- ③ 特定の観光地・観光資源を売り出す一方で、「朝倉市」としてのシティセールスの強化を図ります。
- ④ さまざまな分野におけるコンベンションの企画・実施に取り組みます。

（3）市民ができること

**観光事業者の人は、市全体で打ち出すプロモーション活動に積極的に関わ
り、その活動を盛り上げていきましょう！**

市民ワークショップのアイデア！

～ 観光プロモーションの推進 ～

- ・ 福岡都市圏へのイベント情報網を確立する。
- ・ 案内看板・標識を統一する。
- ・ 企業が発行しているダイレクトメールに朝倉の観光名所・史跡等を載せる。
- ・ 朝倉市の情報を発信できるアンテナショップを福岡市内に設置する。
- ・ 福岡市・北九州市において、朝倉市の観光案内につながるイベントを開催する。
- ・ マスコミなどにいろいろな情報を提供する。
- ・ 原鶴温泉の出張「足湯」を展開する。
- ・ 新聞・トラベルニュースへ情報を提供する。
- ・ 朝倉路のおすすめコースをいくつか設定し、雑誌に載せてもらう。

第4章 観光客に配慮した環境づくり

1 環境・景観の保全

(1) 現状・課題と方向性

観光客から見た朝倉市のイメージは、「田園都市」といった、素朴な自然環境が印象深く、特に女性の観光客には美しい風景とおいしい食べ物が好まれているようです。また景観の面では、小京都の雰囲気而今に残す重要伝統的建造物群保存地区「秋月」は、朝倉市の誇るべき景観の一つです。

環境・景観は、観光において印象深いシチュエーションを構成する重要な背景となります。今後は、朝倉市に多様に存在する自然環境・景観、あるいは町並み景観等について、その保護と活用、すなわち保全の観点からの取り組みを市民との協働のもとに進めていくことが必要となっています。

(2) 施策の方向

- ① 守る自然から育てる自然へとシフトし、美しい自然・景観と調和した観光振興を図ります。
- ② 環境・景観の保全と市民活動を組み合わせ、観光振興とともに地域活性化に結びつけていきます。
- ③ 秋月地区をはじめとして、蔵やわらびき屋根といった各地に残る歴史的景観の保全に努めます。

(3) 「感」「楽」「味」別の施策概要

「感」あさくら（水・緑・空気）

- ① 住環境整備と一体となった景観整備の推進
- ② 市民参画による「花街道」等の整備検討

「楽」あさくら（歴史・文化）

- ① 歴史・文化を守り伝承する後継者の育成

「味」あさくら（食と農・温泉）

- ① 温泉地の町並み・景観の統一的整備

（4）市民ができること

ゴミ拾いなど、自分が住んでいる地域の身近な環境美化からはじめ、可能な範囲で地域の景観づくり活動にも参加しましょう！

市民ワークショップのアイデア！

～ 環境・景観の保全 ～

- ・ 汚れたガードレールを撤去する。
- ・ 国道沿いの草とり、花壇の整備を行う。
- ・ 街灯の整備を行う。
- ・ どの家にも花を植える（種の銀行をつくる）。
- ・ 家並みの色を統一する。
- ・ 農業・水・川・歴史が優れているので、その維持・保全に努める。
- ・ 行政・事業者・ボランティア（市民）が参加できる景観保全組織をつくる。
- ・ 立て看板を規制する。
- ・ 紅葉樹を植栽する。

2 観光関連施設の整備

（1）現状・課題と方向性

朝倉市の観光関連施設は、大小含めてさまざまなものが整備されており、中でも道の駅「原鶴」ファームステーションバサロ・三連水車の里あさくら等は、交流拠点施設として多くの観光客の利用があります。しかしながら一方で、来訪者数も下火となり、今日その管理運営が難しくなっている施設もみられます。

今後は、本計画の内容に基づく適切な施設整備を進めるとともに、現在ある施設の有効利用や、小さな休憩所等観光客へのきめ細かい配慮が必要となっています。

(2) 施策の方向

- ① 観光関連施設については、今ある観光資源の有効活用を図る上で、補完的な設備が必要なものを中心に整備を進めていきます。
- ② 筑後川を活用した水景関連施設の整備を検討します。
- ③ 散策などの際に利用できる休息所を必要な場所に整備していきます。
- ④ 歴史的建造物など、定期的な保安全管理が必要なものについて、適宜整備を進め、貴重な歴史文化資源の保全を図ります。
- ⑤ 道の駅「原鶴」ファームステーションバサロと原鶴温泉など、情報発信機能と観光資源が有効に結びつくよう、それぞれの施設の連携に必要な整備を進めていきます。
- ⑥ 原鶴温泉等において、空き店舗をアンテナショップやチャレンジ出店の場として活用を進め、賑わいの創出を図ります。

(3) 市民ができること

市内にある観光関連施設は観光客のためだけのものではありません。買い物をはじめ、ローカルな情報を集めたり発信したりと、地域に溶け込んだ施設になるよう、市民のみなさんも積極的に活用しましょう！

市民ワークショップのアイデア！

～ 観光関連施設の整備 ～

- ・ 小さな子ども連れで手軽に遊びに行ける場所づくり。
- ・ 散歩しやすい道づくり。
- ・ 工場見学のできる施設を案内する。
- ・ 直営農場を整備し、交流型農業を実施する。
- ・ 工芸作家等が移り住むような場をつくる（空き家を活用し、募集するなど）。
- ・ トイレを適度に設置する（裏側ではなく表側に）。
- ・ 訪れた人がゆっくりできるイス・トイレなどを設置する。
- ・ バサロと原鶴温泉をつなぐために（交流）、安全で面白いつり橋を架ける。

3 交通環境の整備

（1）現状・課題と方向性

朝倉市の観光における交通機関・手段は、広域交通については充実しているものの、市内交通については非常に利便性が低いという指摘が多く聞かれています。また、休日などの渋滞を迷惑だと感じている市民もみられるようです。

今後とも、交通事業者等と連携しながら、その充実に努めていく必要がありますが、一方で、すべてを公共交通機関で対応することが困難な場合もあることから、新たな交通機関・手段の確保も望まれています。

（2）施策の方向

- ① 観光地の一定エリア内での移動手段の確保策として、人力車や馬車など、趣向に富んだ交通手段導入の検討を進めていきます。
- ② 市内を巡るバスツアーなどの検討を関係事業者等とともに進めます。
- ③ 広域交通網と連動した観光ルートの整備を検討していきます。
- ④ 特に来訪の多い福岡都市圏を対象とした送迎バスの運行を検討します。
- ⑤ 各観光資源をつなぐ、市内一円観光道路の整備を検討します。
- ⑥ エコ道路として、自転車で自然景観等を楽しめるサイクリングロードの整備を検討します。
- ⑦ 地域の理解を得ながら、駐車場の整備やパークアンドライド[※]の推進に取り組みます。

※パークアンドライド：最寄り駅周辺の駐車場に車を止め（パーク）、公共交通機関に乗り換えて目的地へ向かう（ライド）移動方法のこと。

（3）市民ができること

市民のみなさん一人ひとりの公共交通の利用が需要となり、ひいては観光も含めた公共交通の充実につながります。たまにはマイカーの利用をやめて、移動手段に公共交通機関を使ってみましょう！

市民ワークショップのアイデア！

～ 交通環境の整備 ～

- ・ 高木～山田の市道の拡幅を早期に行う（回遊ルートを整備する）。
- ・ 歴史を知る上での史跡案内の看板、駐車場、道路の整備を行う。
- ・ 恵蘇八幡宮や山田井堰の駐車場を整備する。
- ・ 筑後川河川敷を駐車場として活用してはどうか。
- ・ 観光地までの道路を整備する。
- ・ 甘木駅からピーポートまでの交通手段を整備する。
- ・ 交通網の一元化を行う（レールバス、電車、バスの連携）。
- ・ 公共交通機関の時間的な接続を調整する。
- ・ 観光スポットを巡る無料バスを運行する。
- ・ バスのダイヤを改善する（土日のみでも）。
- ・ 駅から各地（秋月・三連水車・原鶴）への交通手段を充実させる（温泉シーズンは増便、専用便を設けるなど）。
- ・ 福岡都市圏（天神・博多駅・空港）や大手ホテルからの直行バスを運行する。



市民ワークショップ（杷木地域）

第5章 観光振興の推進体制づくり

1 地域間ネットワークの形成

（1）現状・課題と方向性

朝倉市の観光資源は、甘木・朝倉・杷木の各エリアに点在しており、いずれも個性のあるものですが、単体としての集客力が十分あるとは言えない状況にあります。

それぞれの観光資源を有する地域では、現在積極的なPR活動も展開されていますが、今後は地域間におけるネットワークを強化し、相乗効果によって、さらなる集客力の向上につなげていくことが求められています。

（2）施策の方向

- ① 観光振興のエリア設定を行い、各エリアの主体的な取り組みを支援するとともに、相互交流ネットワークの構築を進めます（地域文化相互交流・交流事業）。
- ② 朝倉市の各地域に点在する歴史的な資源をつなぎ合わせ、歴史散歩道（コース）等の設定を行います。
- ③ 観光拠点を結ぶ経路や観光エリアの入り口の景観について配慮し、必要に応じた環境整備を進めます。

（3）市民ができること

朝倉市は誕生してまだ日が浅いまちです。同じ市となった“となりまち”に興味を持って、調べてみたり実際に足を運んだりしましょう！

市民ワークショップのアイデア！

～ 地域間ネットワークの形成 ～

- ・ 道の駅等を利用した産地間交流を推進する。
- ・ 地域間での情報共有を行う（どこに何があるかなど、基本的な情報の共有）。
- ・ 花のネットワークづくり。
- ・ まちの駅の増加を推進する。
- ・ スタンプラリーを通年で行う。

2 広域連携の推進

(1) 現状・課題と方向性

朝倉市への来訪者の意識としては、目的地を「朝倉市」と明確に設定している人は少なく、実際には他市町村を含めた、周辺エリアを目的地としている人が多いようです。

こうした動向を踏まえ、朝倉市単体による観光振興への取り組みとあわせ、観光客の動線を同じくする他の自治体と協力しながら、広域連携による観光振興への取り組みを進めていく必要があります。

(2) 施策の方向

- ① 他の自治体との連携を強化し、多様な観光資源のルート化を図りながら、相乗効果を引き出します。
- ② 特に筑後川流域の各自治体との連携を強化し、筑後川をテーマとした観光振興を積極的に進めます。

(3) 市民ができること

時間を見つけて、同じ幹線道路や自然環境、歴史資源等につながる近隣のまちへ出かけてみましょう。そして、朝倉市と同じところ・違うところを探しながら、それぞれの魅力を再発見しましょう！

市民ワークショップのアイデア！

～ 広域連携の推進 ～

- ・ 歴史物語をテーマに、朝倉市と九州国立博物館をつなぐ。
- ・ 近隣市町村との体験型観光のネットワーク体制を構築する。
- ・ 朝倉市だけでなく、広域連携による情報提供を行う（マップの作成など）。
- ・ 地域間ネットは広域連携で。県境を越えて日田市くらいまでを含める。
- ・ 九州国立博物館の客を朝倉市へ誘導する。

3 関係諸団体との連携体制の構築

（1）現状・課題と方向性

朝倉市には、市観光協会をはじめとして、観光に携わる関係諸団体が活発な活動を行っています。本計画において、観光の基本的な方向性を「感」「楽」「味」と位置づけたことから、今後はこれまで以上に、多くの自然環境関連団体、歴史・文化関係団体等との連携が必要になってきます。

また、各団体の活動の活性化を図るための支援策についても、さらに強化していく必要があります。

（2）施策の方向

- ① 市観光協会、朝倉商工会議所及び朝倉市商工会、JA、交通事業者、文化活動団体等との連携強化を図っていきます。
- ② 関係諸団体との連携を図る上で、それぞれの団体の主体的な取り組みを支援するためにも、行政の持つ権限・財源等の委譲を段階的に進めていきます。

（3）市民ができること

市内では、観光に携わるさまざまな団体において、多くの方が活発な活動を続けています。気の合う人たちを探しながら、積極的に交流し、情報交換と一緒に活動する機会を持ちましょう！

市民ワークショップのアイデア！

～ 関係諸団体との連携体制の構築 ～

- ・ 関係機関・団体と観光情報を交換し合う。
- ・ 観光プロデューサーを公募するなどして、人材を広く求める。
- ・ 観光に関連する市民団体への支援（人・物・金）に取り組む。
- ・ 各観光関連施設等による情報の共有・連絡体制を整える。
- ・ NPO 組織も協力して、市外の人々の朝倉市「だんだん」ファンづくりに取り組む。



恵蘇八幡宮



美奈宜おくんち（美奈宜神社）

第4部 重点プロジェクト

- 第1章 重点プロジェクトの位置づけ
- 第2章 重点プロジェクトの内容

第1章 重点プロジェクトの位置づけ

観光振興に係るさまざまな施策については、「第3部 各論（分野別の取り組み）」に記載したとおりですが、観光を広義にとらえ、さまざまな分野での施策が盛り込まれている反面、総花的な施策群となってしまう、どの施策に特に力を注ぐのか、あるいは優先的に進めていく施策が見えにくい側面があります。

これらの力配分については、通常、行政の業務遂行のあり方にのっとって、予算を含めた実施計画の作成過程で定められていくこととなります。しかしながら、このサイクルの中では、施策を遂行していく上での機動性に欠けることは否めず、実際に実施・実現される観光施策が見えにくいままの状態となってしまう。

そこで、基本施策というレベルから一歩進め、基本施策の中でも優先し、特に力を入れるべき施策を重点プロジェクトとして設定することにより、計画実現の方向性、具体策などを明らかにしていきます。

この基本施策を補完する重点プロジェクトは、計画を実効性あるものとし、より現実味を帯びた朝倉市の観光の将来展望を導くものとなります。

第2章 重点プロジェクトの内容

重点プロジェクトの推進にあたっては、平成20年度以降、プロジェクトごとに市民の参加を含む「プロジェクトチーム」を組織し、施策の実現に向けて、具体的な実施内容に関する企画・立案を行っていくものとします（次ページ参照）。

また、短期・中期・長期的な施策展開の展望については、平成20年度以降の実施計画において具体的に記載していくこととなります。

なお、本計画の期間は平成20年度からの10年間となりますが、重点プロジェクトの内容については、市の状況や観光を取り巻く社会情勢に応じて適宜ローリング・見直しを行っていくものとします。

① 資源活用・魅力向上プロジェクト

朝倉市の豊かな自然（水・緑・空気）、歴史・文化、食と農や温泉など、あらゆる地域資源を創出・活用し、観光地としての魅力向上（イメージアップ）、さらには地域ブランド力の強化につなげる施策を展開します。

各種ツーリズム・体験型観光商品・散策等コースの開発
 うまいものづくりの推進（伝統食の再評価と新作料理・土産物の開発等）
 「“だんだん”あさくら物語」の統一的なコンセプト（概念・考え方）やイメージによる各観光地、イベント等の魅力向上企画 など

② おもてなし・環境プロジェクト

朝倉市の人情豊かな地域性を活かしたおもてなしの気持ち・行動の強化とともに、インフラや交通機関の整備など、観光客を受け入れるための環境・土台をつくる施策を展開します。

人材の育成（ボランティア等、観光交流を支える人づくり）
 市民向けの講座・勉強会の開催（歴史・文化、語学等）
 観光道路・公共交通機関・景観の充実 など

③ 情報・交流プロジェクト

来訪者や将来の観光ターゲットに対する適切な情報発信・提供、PRを行い、朝倉市の魅力を伝え、リピーターや新規来訪者の増加につなげる施策を展開します。

各種サインの整備
 各種パンフレット・ガイドブックの充実
 IT環境を活用した情報発信（インターネット・携帯端末） など

④ 連携・推進体制プロジェクト

市内の各地域をつなぐネットワークの形成により、「朝倉市」全体としての観光価値を高めるとともに、筑後川流域をはじめとする他自治体との広域的な連携を深め、相乗効果を引き出す施策を展開します。

市内観光資源のネットワークづくり
 観光関連諸団体との連携体制づくり
 他自治体との広域連携体制づくり など



寺内ダム



隠家の森

第5部 計画の推進に向けて

■第1章 各主体の役割

■第2章 計画の推進体制

第1章 各主体の役割

1 民間の観光事業者・観光関連団体

本計画に盛り込んだ施策及び重点プロジェクトの遂行にあたっては、観光事業者や交通事業者、商業関係者及び観光関連団体等の取り組みによるところが大きく、各事業者が当事者意識を持って主体的に取り組むことが不可欠です。

その上で、従来から朝倉市の観光振興を牽引してきた市観光協会、朝倉商工会議所及び朝倉市商工会（平成21年4月発足予定）やJA等が中心的な役割を担うものと考えられます。

また一方で、今後も観光振興策の検討を現場レベルで進めていく中で、事業者や団体のセクションに固執するのではなく、広く情報を集め、時には専門家などの第三者の視点を取り入れながら、トレンドに敏感で柔軟な環境づくりを進めることが期待されます。

2 市民や一般企業

朝倉市では、観光に携わるボランティア等の市民団体の動きが活発化してきています。このような取り組みは、市全体の観光振興を図る上で、今後ますます重要な役割を担っていくものと期待されます。

また、本計画に盛り込んだ施策は、広くまちづくりや環境整備に関わっており、市民一人ひとりに対しても少しずつ意識改革や行動をうながす内容となっています。このため、各種施策の遂行にあたっては、観光に参加したい意思のある多様な市民の参画を得たり（幅広い年齢層や男女の共同参画）、連携を図りながら取り組みを進めていくこととなります。

そのほかにも、水、緑、空気、歴史、文化、食と農、温泉といった朝倉市の観光振興のキーワードに基づき、これまで直接的には観光事業と関わりが少なかった産業の企業・従事者においても、それぞれの役割を担っていくことが必要です。

これまで、観光に直接関係していなかった市民や一般企業にとって、観光振興はまだまだなじみの薄いものですが、何らかの行動を始めることが地域への誇りや愛着を育て、ひいては住みやすいまちづくりにつながることで、企業のイメージアップや経済効果の波及につながることで、といった動機付けとなるイメージの発信をしっかりと行い、官民協働に向けた一体感の醸成に努めます。

3 行政

国、福岡県、朝倉市といった行政は、観光資源の保全、観光ルート形成、観光基盤整備、プロモーション等に関する事業を進めていきます。

また、朝倉市は、国・福岡県の観光分野における動向・施策の的確な把握とともに、各種制度に基づく支援財源の利活用を進めながら、民間の観光事業者、市民、観光関連団体等の取り組みにあたっての土壌づくりを積極的に支援し、本計画を推進する上での全体調整役を担っていきます。

第2章 計画の推進体制

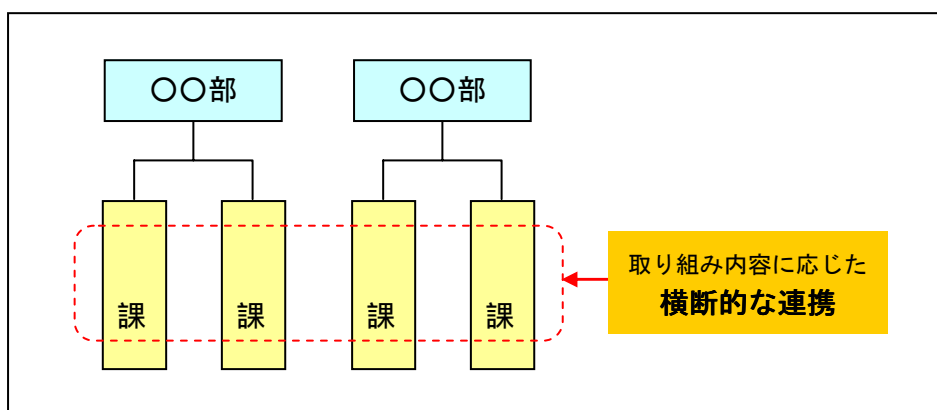
1 行政内部（庁内関係部課）の連携・協力体制

観光振興がまちづくりの重要な視点となる中、行政内部では主務担当課を中心に庁内の幅広い関係部課との連携体制を築き、協力しながら本計画の推進を図ります。

また、重点プロジェクトなど、観光振興にあたって特に優先度・重要度の高い取り組みを進めていく際には、必要に応じて関係部課合同のプロジェクト推進チーム等の組織化を図り、横の連携をより強固にした推進体制で施策遂行にあたります。

さらに、観光振興を主務としない部課が進める事業においても、観光振興の視点を持って取り組み、朝倉市のイメージ向上に努めます（例えば、景観保護、道路整備、バリアフリー環境の整備、歴史・文化の保護など）。

<行政内部の連携・協力体制イメージ>

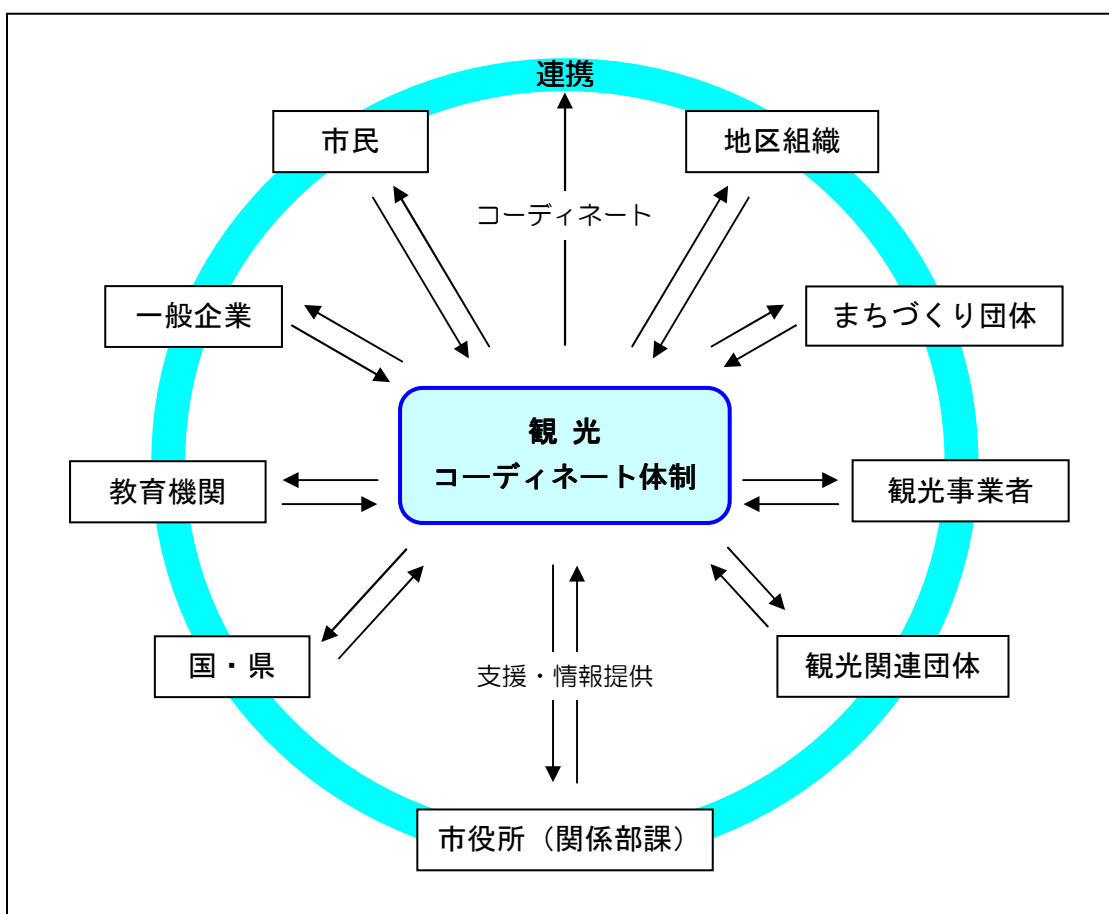


2 観光コーディネート体制の設置

本計画を着実に推進し、効果を上げるためには、朝倉市の観光を全体的にとらえ、各主体を包括していくための強力なリーダーシップが重要です。そのためには、朝倉市の観光に関するあらゆる情報を集約し、より迅速に効果を発揮するためのコーディネート機能が求められます。

そこで、専門性の高い外部の人材の登用等も視野に入れながら、各主体をリードしていく体制を庁内に設置します。

<コーディネート体制・連携のイメージ>



3 計画の評価

計画策定 (Plan)、実行 (Do)、点検 (Check)、見直し (Action) といった計画管理のためのサイクル (PDCA) を実行し、本計画の実現を図りながら、観光振興への効果を着実に上げ、朝倉市観光の質的な向上をめざします。このため、市民や来訪者の視点も踏まえながら、前述のコーディネート体制が中心となって計画の進捗状況を把握するものとします。

また、本計画策定の際にも実施したアンケート調査及びヒアリング調査など、市民意識や観光の現場で発生する課題の定期的な把握に努めます。

資料編

- 朝倉市観光基本計画策定委員会設置要綱
- 「朝倉市観光基本計画策定委員会」委員名簿
- 計画策定の経緯

朝倉市観光基本計画策定委員会設置要綱

平成19年6月27日
朝倉市告示第126号

(設置)

第1条 本市の観光の振興に関する総合的かつ計画的な施策の推進を図る観光基本計画の策定を検討するため、朝倉市観光基本計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について検討を行い、市長に意見を述べるものとする。

- (1) 観光基本計画の策定に関すること。
- (2) その他観光振興の推進に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員18人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

- (1) 識見を有する者
- (2) その他市長が適当と認める者

3 委員の任期は、前条の規定による検討を行い、観光基本計画を策定する日までとする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長各1名を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は欠けたときはその職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集し、会議の議長となる。

2 委員会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、これを開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(関係者の出席等)

第6条 委員会は、必要に応じて、会議にオブザーバーとして学識経験者、観光アドバイザー、関係者等の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、総務部プロジェクト推進室において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成19年6月28日から施行する。

「朝倉市観光基本計画策定委員会」委員名簿

区 分	団体・組織等	氏 名	備 考
識見を有する者	朝倉市観光協会	上野 春樹	
	"	松木 和哉	
	朝倉商工会議所	床嶋 政義	
	朝倉町商工会	井福 勝義	
	杷木町商工会	日野 卓美	
	甘木朝倉広域観光協会	馬場 美由紀	
市長が適当と認める者	甘木地域	武井 善昭	委員長
	"	松木 祥憲	
	"	坂井 圭子	
	朝倉地域	高橋 正和	
	"	田中 博子	
	"	丸林 学	
	杷木地域	土谷 朝子	副委員長
	"	林 温隆	
	"	秦 正育	
	市商工観光課	石井 清治	
	市農業振興課	岩下 孝	
	市文化課	川端 正夫	

【策定事務局】

市総務部プロジェクト推進室

都合和則、秋穂修實、鶴田 浩、安本昭男

【策定支援業者】

株式会社 ジャパンインターナショナル総合研究所

計画策定の経緯

開催日	会議等	協議内容
平成 19 年 6 月 28 日	第 1 回策定委員会	①計画策定の趣旨説明 ②意見交換（観光に対する想い）
平成 19 年 7 月 21 日	第 2 回策定委員会	①市内観光資源の視察（フィールドワーク）
平成 19 年 7 月 26 日	第 3 回策定委員会	①フィールドワーク成果の報告 ②意見交換（市内の観光資源）
平成 19 年 8 月 23 日	第 4 回策定委員会	観光を取り巻く状況（統計データ）の説明 ②ヒアリング調査結果の報告 ③意見交換（ヒアリング調査結果）
平成 19 年 9 月 21 日	第 1 回庁内推進会議	①計画策定の経過報告 ②「朝倉市観光の方向性」に関する協議 ③重点プロジェクトの考え方に関する協議 ④市民ワークショップの実施方法に関する協議
平成 19 年 9 月 27 日	第 5 回策定委員会	①国・県・他自治体の動向の説明 ②アンケート調査結果（速報）の報告 ③「朝倉市観光の方向性」の説明 ④鵜飼体験
平成 19 年 10 月 17 日	第 2 回庁内推進会議	①「朝倉市観光の将来像」に関する協議 「基本的な方向性」に関する協議 「施策の方向」に関する協議 ④「重点プロジェクト」に関する協議
平成 19 年 10 月 25 日	第 6 回策定委員会	①「基本的な方向性」に関する協議 ②「施策の方向」に関する協議 ③「重点プロジェクト」に関する協議
平成 19 年 11 月 14 日	第 3 回庁内推進会議	①「朝倉市観光の将来像」に関する協議 「重点プロジェクト」に関する協議
平成 19 年 11 月 22 日	第 7 回策定委員会	①「朝倉市観光の将来像」に関する協議 ②各論（施策）の意見プロットの報告 ③計画骨子案の説明
平成 19 年 12 月 10 日	市民ワークショップ （甘木地域）	①取り組みアイデアの抽出（グループワーク） ②グループ別発表
平成 19 年 12 月 11 日	市民ワークショップ （朝倉地域）	①取り組みアイデアの抽出（グループワーク） ②グループ別発表

平成 19 年 12 月 18 日	市民ワークショップ (杷木地域)	①取り組みアイデアの抽出 (グループワーク) ②グループ別発表
平成 19 年 12 月 19 日	第 4 回庁内推進会議	市民ワークショップ成果の報告 ②計画骨子案 (各論) に関する協議
平成 20 年 1 月 18 日	第 5 回庁内推進会議	ヒアリング調査結果 (追加実施) の報告 計画素案に関する協議 計画の推進体制に関する協議
平成 20 年 1 月 24 日	第 8 回策定委員会	①市民ワークショップ成果の報告 ②ヒアリング調査結果 (追加実施) の報告 ③計画素案に関する協議 ④計画の推進体制に関する協議
平成 20 年 2 月 26 日	第 6 回庁内推進会議	①計画案に関する協議
平成 20 年 3 月 26 日	第 9 回策定委員会	①計画内容の報告 ②計画の推進に向けた意見交換

朝倉市観光基本計画
“だんだん”あさくら物語

発行年月 平成20年3月

発行 福岡県朝倉市

〒838-8601 福岡県朝倉市菩提寺412番地2

TEL 0946-22-1111

<http://www.city.asakura.lg.jp/>

印刷・製本 株式会社 ジャパンインターナショナル総合研究所